





『日之本（日本）建国思想・考古学』（日本民族学）

『元始・ΧΡΙΣΤΟΣ（キリスト）思想国は日本（JAPAN）だった』

【日本建国起元は紀元1年】⇒《**奴隷解放思想**》

八尾（市）の語元...《**ユダヤ捕囚解放...紀元前538年**》に起因する

はじめに

...【**byChance**・際会】（**バイチャンス**）...に因る「**松村 和美さん**」の特異なるメッセージを受け【**元始ヤマト国家・建国起点年**】...を見出す事に成功致しました。

《【**日本国家・起元1年目**】は世界年暦1年目として設定された》

...近年（2014/10/07/火曜・現在）に言う、【イエス生誕年】（紀元前4年頃？）に対し、【Anno Domini】（**A.D...アノウダミナイ**）の起点年が一致しないのは、其の双方の検証方式に問題が在る。つまり、現在に言う西暦年は、6世紀に成って始めて設定されたので在る。然して、Jesus（イエス）の十字架刑に関する情報は【新約聖書】に委ねられている。従って、其の検証方式に問題が在る。然るに、ローマキリスト教が6世紀に始めて設定した【教書・コンプトゥス・パ

スカリス】（イエス復活祭・早見表）を以て、【西暦元年・設定方式】がローマの暦として施行されたので在って、西暦年に言う【Anno Domini】（A.D...アノウダミナイ）の語意は【イエス（Jesus）生誕年】を言い表す言語ではなかったと言う事で在る。

...【Anno Domini】（A.D...アノウダミナイ）とは、【イエス生誕年】の意味では無い。「ディオクレティアヌス」が「ペテロニウス司教」に手紙（復活祭早見表に関する書簡）を書いた年（6世紀・531年）を以て、【復活祭・早見表】数値年を遡り、イエス十字架刑の年を突き止め、其れから遡った31年前の年を以て【Anno Domini】と命名したので在るが、然し、此の時は未だ、ローマ国の暦の枠外に在った。然して、暦として始めて施行したのは彼の友人カッシオドルスと、其の門弟達で在った。然るに、【教書・コンプトゥス・パスカリス】方式1（562年・イエス31歳年数値を加算する）に従い遡った起点年を以てローマ暦年起点（紀元）として施行された。然る後、徐々に、近隣諸国のキリスト教が此の暦を用いる事と成り現在に至っている。

...【日本国家・建国起元1年目】の設定方式は、ユダヤ民族捕囚の原因と成す「エゼキエルの預言」（エゼキエル書...4・4-5）、つまり「前587年-390年」に言う（前197）【悔い改めの義】を経て成る【クムラン秘儀宗団】（Qumran Sect）のトップグループの人達が定めた【**創世記3941年目**】の年（数え年3942年目・Qumran宗団メシア来臨歴）を以て【日本（ヤマト）国家成立・元年】と設定されたので在った。此の、【究極的日本史の謎】を解明するに至った切っ掛けは、【**buy chance**】（昭和53年...際会・saikai）に言う、【松村和美】さんの彼の時の、メッセージ（秘密）に在りました。

...筆者（小島 宏）研究、即ち...《元始・日本（ヤマト）言葉の起元研究》...の入り口に辿り着けたのは、【**buy chance**】（際会・saikai）に言う彼女（昭和53年・筆者30歳）との遭遇に起因し、然る経緯（4年間）を以て、「インナートリップの旅」（自分探しの旅）を脱する答えに辿り付きました。然して、此の時に得た命題が...《日本語（元始ヤマトコトバ）の語元究明》...で在りました。

...《【千木】の語元》...を求め、「紀元前・地中海沿岸文化圏」に於ける国家興亡史に辿り着いた事が私にとっては大きな成果で在った。其の結果...《『死海文書のすべて』（ジェームス・C・ブアンダーカム著）...「訳者・秦剛平（ハタゴウヘイ）...青土社発行」》...と言う本に巡り会えたのも、此れも又、奇跡的経緯（難波・旭屋書店で購入）以ての購入で在りました。

...『日本・開闢神話』（神代歴年数値に繋がる物語）の【**カミ→上**】に対する敬称、及び、尊称語、即ち【国常立尊】（クニノトコタチノミコト）に言う【**ミコト→命→尊**】とは、【創世記3941年目】（アダム歴年を起点と成すユダヤ世界歴年数値）の数値年を語元と成し造語された言語で在る。此の語元の存在を以て、【日本国・開闢神話】の巻頭文の成句は、【創世記】（『旧約聖書』）の劈頭文（成句）の焼き直し版で在る事が明白と成った

...『日本書紀』（国史大系書）に因ると...《神武天皇即位前紀・甲寅（前文略す）～治此西編。皇祖皇考【**乃神乃聖**】（**皇祖**）、積慶重暉、多歴年所。自天祖降跡以逮、【**宇**】（**国家**）今一百七十九萬二千四百七十餘歳～（後文略す）》...と記す処の天文学的数値が意味するものは、【日本（ヤマト）神話・歴年数値】（300万年の範疇を以て神話が構築されている）に基付く数値で在った。然るに、此の秘儀数値を以て...《【**カミ**】（**上**）に対する**恐れ**》...をも意味表していたの

で在った。

...《『秀真伝』（ホツマツタエ）文書は日本人の聖書として書かれていた》...然るに、此の漢字表記に言う【秀真】の初出は...「昔、伊弉諾尊曰、此國曰、日本（ヤマト）者浦安國、細戈千足國、磯輪上（カミシワカミ）秀真國（此伝袍圖莽句爾）」...『日本書紀』（神武天皇31年条より抜粋）...の中の【秀真→袍圖莽句爾】（ホツマクニ）が初出で在る。

...【死海文書】の発見（1947年）以後、戦後の独立国イスラエル国家に因る長年の研究の末、其の研究の経緯と其れ迄の研究成果が記述された本、即ち...《『死海文書のすべて』（ジェームス・C・ファンダーカム著）...「訳者・秦剛平（ハタ・ゴウヘイ）...青土社・2005年3月25日第1刷発行」》...の本を、難波の【旭屋書店】で見付けた切っ掛けは、此れも奇遇な経緯に因る出来事の結果（2005年6月頃・北村正信氏との待ち合わせ場所）で在った。

...『死海文書のすべて』の本を、一通り読んだ後、其の本は数年程、ほったらかしにして本の事は忘れていた。そんな或日（仕事）の事、突然、或事が閃いた。其れは...《何故・神武天皇の即位は辛酉年（天竺暦58年）でなければ成らなかったのか？》...と言う疑問で在った。其の疑問に対し...《何故・7年の東征期間が必要だったのか？》...と考えれば、【ヨベル年・設定方式】が関与している事を突き止めるに至った次第在る。然して、此処で思い出したのは、彼の『死海文書のすべて』の本の中の...《メルキゼデクテクスト・11Q Melch（日本語・翻訳文）》...の内容で在った。従って...「最後の10ヨベルの最初の年に於ける恩恵的、自由の告知」...等と記す内容がキッチリ【磐余彦（後の神武天皇）・東征物語】に当て嵌まったので在った。此の発見は、「平成19年・2007/11/10/土曜」（午前中・仕事最中に突然閃いた）の事で在った。

...【ΧΡΙΣΤΟΣ】（キリスト）の頭文字【X】の形状が、神社の屋根に設置され、【チギ】（置き千木）と命名された由縁（語元）は、【秘儀数値1000】（倭数値の頭文字が語元）に由来する。然るに、「元始・ヤマトコトバ」とは、【文字言葉】（ホツマ文字・言語）で在る。従って、【カミ】、【ミコト】も然り、此の【文字言葉】の創成者は【クムラン秘儀宗団】（Qumran Sect）のトップグループの人達で在る。然るに、倭語に言う【カミ→上】、即ち、【カミ】の語意は、【マルドゥク神話・エヌマエリシュ】に言う...【エヌマ（時）エリシュ（上では）】の語意に於ける...《【エリシュ】（上の意）》...等（カミ・上）を意味表す語意的要素を有している。然して、厳密的に言えば、極東の列島（現在に言う日本列島）に、【クムラン秘儀宗団】（Qumran Sect）者達が移動して来る迄は、【ヤマトコトバ】は存在していなかった。つまり、【元始・ヤマトコトバ】とは、【クムラン秘儀宗団】（Qumran Sect）の人達が、【メシア来臨思想】を以て創建して成す新なる国家の言語として、此の極東の島に於いて普及させた【文字言葉】（元始・ヤマトコトバ）で在ったのだ。

...【置・千木】の語元がギリシア文字に起因する事に私が気が付いたのは...《昭和61年（1986年）8月22日金曜・毎日新聞夕刊（文化欄・展望）》...に記載されていた『柱と鳥について④』（哲学者・梅原猛）の記事に感化された処に在った。此の夕刊記事（著者・梅原猛）を読んだ直後、直ちに、【鳥居の語元】究明的研究を思い立った次第で在りました。従って、此の瞬間、自分探しの旅、即ち、「我がインナートリップの旅」（12年間続いていた）は自動的に終止符が打たれる事と成った次第で在りました。然る後、【鳥居】も【千木】も、神道の神社を象徴する物体で在ると言う意味を認識し、【千木】の語元究明的研究も此処に加わったしだいで在りま

した。

...冒頭の画像（女性）は...「**1979年・昭和54年10月10日**」（水曜・体育の日・国民の祝祭日）の【金剛山・登山】の時。山頂での昼食時、同行の社長（八尾市・某住宅会社の社長）が撮ってくれました。其の当時の出来事は、今でも忘れられません。

...上記（はじめに）の記述内容を重点的に題材を取り上げ、以下、新たに設定したカテゴリー、即ち、【日本に於ける21世紀・起点】（**2014年・平成26年8月18日・月曜**）を授け...Amebaブログの中にブログ記事を書いています。そして...『日本は世界で一番最初の【ΧΡΙΣΤΟΣ】（キリスト）思想国だった』（タイトル）...と成す標題を掲げております。因って、其の標題に添った内容に変更する必要性を痛感し、以前、から書き留めていた文書（下記）に対し、今日（**2014年・平成平成26年8月18日・月**）の日付を以て、順次、誤字、脱字等の修正を兼ね、書き直しを致します故...宜しくお願い致します...

【ヤオ】（八尾市）の語元はユダヤ捕囚解放年（前**538**年）に起因する

...大阪府に位置する【八尾市】の語元は、【元始・ヤマトコトバ】に遡る。然るに、其の【元始・ヤマトコトバ】とは何かと言え、つまり、動物を以てすれば基本的な【**Man**】（人間・人類）以外、口から息をする動物に至っては、口から音を発生させる事が出来る動物の鳴き声に遡る。然るに、口からの吐く息を利用して成す音（鳴る）は、仲間（種族）同士の暗号音等的な役割を為し、其れは独自の発達させていったのが、各々の動物たちの鳴き声の違いであろう。然して、其の延長線上に、人類に於ける【**word**】（ワード・言葉・至高神が発する**ロゴス**）と成ったと考えられます。

...【**Man**】（人間・萬・**倭語ヨロズ**）とは、倭語数値に言う【**ヨロズ**】の意でも在る。此の原義は、ギルガメシュ叙事詩に起因し、後年に於けるギリシア神話（オリオン&サソリの戦い）に取り込まれた。然る後、【エゼキエル書...2・6】、及び、【列王紀...12・11】にも取り込まれているので在るが、此処で言わんとする処は、其れらの神話的解釈によれば、其の【サソリ】（スコーピオ→蠱）は、天球に於ける【太陽・軌道】等に関する神話的伝承として、東の地域へと伝播していった。然るに、現在に言うシルクロード等のルートに於ける古代期（紀元前）に在っては、古代、地中海沿岸に発展したギリシアに於ける【ギリシア神話】思想（其の後年に至っては大乘仏教と混合され仏像形状に影響を及ぼしている）が、仏教の伝播と相俟って中国へと伝わったので在る。其の名残をの1つが【サソリ】伝承、即ち...《【サソリ】→【漢字・蠱】（マン）→【万】》...の字形に変化した次第で在る。従って、支那（秦が語元←語源では無い）で発達した【絵文字漢字】、然り、漢字の絵文字とは、西域（新ヒッタイト時代頃・前11～12世紀頃）に於ける国々の興亡に関連する戦に敗れた民族が、東に逃れ、辿り着いた処で用いた絵文字が漢字の起元（甲骨文字）で在る。因みに、現在に言う漢字（簡体字では無い）は、「1世紀に、ほぼ完成した」とされるが、其の漢字の完成に至る間に在っても、尚、西域（ギリシア方面）思想に関連する言語、語意等が取り込まれていた。其の一端を言えば、...《【萬】の字元》...於いて、【蠱（**サソリ**）→萬】（漢字数値・万の位）へと字形と呼称（名称）を変化させていたので在る。然して、何故、日本に漢字が伝わる以前（応神天皇以前）に在って、既に、倭語数値に言う【ヨロ】の語意を以て【萬】（万）の位が設定されていたのかと言え、【ヨロ】の語元に行き着く語根に其の答えが在る。つまり、【倭語・ヒト】（倭語元は1～10）乗る意の【倭語数値・ヨロ】（万の位）に在る。其の【倭語・文字言語】の語根を訪ぬれば、【倭語・ヨ】（汝は存在する）と、【倭語・ロ】（倭語数値・萬←**Myrioi**）との組み合わせ【二文字単語】を以て、

【カミ】（上・AL← カミの形を以て【倭語・ヒト】は創造された←【創世記】）は、「ヒト（1～10が語元）を創造した」（【創世記...1・26-27】）。

...【元始・ヤマトコトバ】の最初は...《基本・1文字単語》...で在る。然る後、【二文字単語】を造語し、以後、多様な単語が造語されるに至る。然るに、何故、初期に在っては【1文字単語】が基本なのかと云えば、其れは、アルファベット文字を基本（語根）としていたからで在る。然るに、我が国からは遙か西域で用いられていたアルファベット文字の始まりは、紀元前1700年頃の【シナイ半島出土・文字】を以て説明される処に起元を有すが、我が国にもたらされた基本的アルファベット文字は基本的には【ギリシア文字】を用いていた。然し、造語に当っては、【アッカド語】を始めとして、文字の起元文字に関連するシナイ文字の語根が採用されていたので在った。

...従って、【ヤ・オ】の語元は、【世界年3941年】（秘儀数値）を起点と成す。然して、此の【ヤ・オ】の語元を造語するに当っては、先ず【世界年3938年】に着点を置いていたので在る。つまり、此の3年の数値差に、【ヤ・オ】の語元がを解明する答えが秘められていたので合ったのだ。

...現在の西暦年と言えば「ユダヤ捕囚解放年」は、【前538】（満年計算方式）とされている。其処から3年過去に遡れば、【536年】（数え歳計算方式）と成る。此の数値年を以て【倭語・ヤオ】が造語されたので在る。然るに...《磐余彦（後の神武天皇）の東征5年目》...を以て【倭語・ヤオ】の初出（『秀真伝』文書）と成る。此の『秀真伝』（ホツマツタエ）文書を漢字に書き換え、【仲哀天皇・神功紀】に繋ぎ編纂された文書が【逸書・日本紀】（ニホンギ・倭語ヤマトフミ）で在る。従って、『創作物語・日本神話』の創作の謎を解く【鍵】は、【神武天皇31年条】で在る。

...「昔、伊弉諾尊曰、此國曰、日本（**ヤマト**）者浦安國、細戈千足國、磯輪上（**カミ**）秀眞國（**秀眞國、此伝袍圖莽句爾**）」...『日本書紀』（神武天皇31年条より抜粋）...

...我が国は、【**ヤマト**】（日本の国称）と呼ばれ、且つ、【**シワカミ**】（磯輪上）、及び、【ホツマクニ】（秀眞國・袍圖莽句爾）と呼ばれていたので在った。然るに、初期的に言う国号【ホツマ】を冠する、我が国最初の歴史書とは、『秀真伝』（ホツマツタエ）で在る。従って、此の『秀真伝』文書を読めば、我が国に於ける【元始・ヤマト国家】に言う【国家・建国思想】の、其の殆どの謎を解き明かす事が出来るの在る。

...（以下・後日、修正の予定...2014/10/18/土曜）...

...以下...、新に設定した標題に添って、徐々に修正していく事と致します（2014/08/24・日曜）...

【日本国家起1年設定】と紀元年（現在の世界暦）設定方式

...歴史の研究に於いて、其の最も重要な事は、歴年の年代設定で在る。現在の世界暦（西暦）が

始めて設定されたのは西洋史に於ける「6世紀の時」（日本では継体天皇崩御年頃に当る）で在った。従って、【神武天皇・即位1年目】（神武天皇・即位1年目）が設定された時は、未だ、存在していませんでした。

...我が国（元始・ヤマトクニ）の「建国起元1年目」を、【神武天皇・即位1年目】とするが、其の年が、何故...《現在の世界暦（西暦）1年目》...に当たっていた事を見出し得たのかと言えば、其れは、【死海巻物（文書）】が発見（1947年・発見）された事。そして、其の古文書の長年の研究結果が翻訳され、我が日本の国でも翻訳版の本が出版された事に在りました。

...然るに、我が国が西暦年を採用して成る「明治6年1月1日」とは、従来暦（和暦）の、其の年の「12月の日数の中の2日を差し引いた残りの日数」が削除され、「西暦年1873年」を以て、「明治6年（1873年）1月1日」と設定されていた。だが、「置閏法」はユリウス暦の儘だった。然して、【グレゴリオ暦・置閏法】に切り替えられたのは「明治33年以降」の事。然るに、先述に言う【皇暦・元年】（神武天皇・即位1年）が、何故、「西暦1年」（A.D 1年はディオクレティアヌス紀元247年に当る531年に成って始めて設定された）に当たるのかと言えば、現在に言う「世界暦・設定方式」は、「ローマキリスト教・復活祭532年周期」（531年過去に遡る計算）を以て「イエス・十字架刑」の年代を割り出されていて、其の年から更に31年を遡った年を以て「イエス・生誕年」（Anno Domini・アノウダミナイ）で在るが、然し、此の計算方式は、我が国最古の歴史書とされる『日本書紀』の「神武天皇31年条」の記述に言う...《【蜻蛉】（アキツ）...【臀帖】（トナメ）》...記述方式の内容と、殆ど、同定的、計算方式で在る。つまり、【IHVH】（唯一神）を言い表す【秘儀数値31】（和歌31文字）が、【ユダヤ歴・創世記年】を特定出来る【秘儀数値】だったのだ。

...然るに、現在の我が国の暦に付いて補足すれば...「明治時代5年」に設定された【紀元節・2月11日】（神武天皇・即位1年目に当るとして設定された）の「祝祭日」は、昭和時代の戦後（大東亜戦争・終結後）に至って、進駐軍アメリカに因って廃止された。つまり、昭和16年に始まった【大東亜戦争】が4年後に終結（1945年・昭和20年8月15日終戦）し、進駐軍アメリカに因って、戦前に行われていた【十二の祝祭日】は廃止された。然し、其の3年後...《昭和23年（1948年）7月20日・法律第百七十八号第二条》...に基づく、「国民の祝日に関する法律」を以て【九つの国民の祝日】が発表されるが【紀元節】の祝祭日は削除されていた。だが、「昭和41年（1996）・祝日法改正」により、其の翌年の「昭和42年2月11日」から、削除されていた【紀元節】は、【祝日・建国記念の日】と名称が変更されるが、基本的に復活を果たし、現在に至っています。

...然して、【日本建国記念日・設定方式】は、『現存・日本書紀』（偽書）記載の【神武天皇・即位1年目】（辛酉）を以て言うが、後年に至っては、つまり、明治時代の新たな暦を以て【紀元節・2月11日】（現在【建国記念の日】と改称）として設定した日付で在った。然し、実際の【元始・和暦】に言う【建国起元日】とは、【立春・正月】の事だったので在る。従って、現在に言う【建国記念日・設定方式】は間違っていると言う事で在ります。

...以下...、新に設定した標題に添って、徐々に修正していく事と致します（2014/08/24・日曜）

...

...【日本国（JAPAN）・開闢神話】神話の神意に付いて...

...然るに、此の、幻の文書（江戸後期の国学者・平田篤胤文献に記載在り）とされていた『秀真伝』文書の全文書が、幸運にも、戦後（大東亜戦争後）の、安定期（マッカーサー無き時代）に入ってから、松本善（ヨシ）之助氏の努力に因って、公の場に公表された事（焚書の危険が無くなった）に因って、沢山の在野の研究者が存在する今（2014・平成26年）、私（筆者）が此処に言い切れるのは...《『秀真伝』（ホツマツタエ）文書は日本人の聖書（Bible）として書かれていた》...と言う事で在ります。因みに、此処に言う【和暦】（エト暦）とは、先述の『秀真伝』文書の紀年を構成する倭語に言う【エト（兄弟）・コヨミ】（兄弟木読）の意で在ります。然るに...【エト・コヨミ】（和暦）...の語意を漢字に書き直した表記言語が、【干支】で在ります。

...我が国（元始・ヤマトクニ）の建国以前、乃ち、『現存・日本書紀』（偽書）に言う、【日ノ本・開闢神話】とは、現在に言う、『旧約聖書』の【天地開闢神話】（創世記・劈頭聖句部分）の焼き直し版で在る。

【日ノ本・国家創建】に先立つ【ミコトノリ】（詔）を以て、【日ノ本・開闢神話】に言う【元初神】（含牙）が誕生した。つまり、創作神話（日本神話）を土台として我が【日ノ本】の国の始まりとされるが、『日本書紀・巻頭語句』に言う【日ノ本・開闢神話】とは...《ユダヤ教の【創世記・劈頭聖句】の焼き直し版》...で在る事が解りました。其の根拠と致しますのは、【元初神（含牙）→クニトコタチ（國常立）】に付された漢字の称号【命→尊】に対し、倭語を以て【ミコト】と読むと記載されている処に在り、【倭語・ミコト】とは、【Bereshith】（ベラシト・創世記の意）の【語根・数値】（ゲマトリア）を用いての造語だからで在る。従って、其の第一義は、【Shema】（シェマ）で在った。然るに、【Shema・シェマ】（申命記を参照の事）とは...

「申命記6・4...聞きなさい（Shema）、Israel（イスラエル）。主は私たちの神（AL・数値31）。主はただひとり（唯一・数値13）である」（【数値31・13】は筆者が独自に挿入）。

【シェマ】の意は「聞きなさいイスラエル」の意味で在って、其の後に続くのが【Berashith・創世記】に言う【劈頭聖句】で在った。然る後、我が国の言語文字、乃ち、【幾何学的形状文字】（ホツマ文字）が設定され、其の【文字言語】（元始・ヤマトコトバ）を用いて翻訳されたのが『現存・日本書紀』（偽書）に記載された【日本開闢神話・巻頭語句】で在る。

尚、『秀真伝...ホツマツタエ』文書（第16章）に因ると...『ミタネフミ（御種文書）→（文中略す）→アメツチ（天地）イマダ ワカザルニ ウイ（初）ノヒトイキ（人息） マドカ（円）

ニテ ミツ（水）ニアブラ（膏・AVR）ノ メオ（女男）ワカレ オ（男）マツ（先ズ）ノホリ
テ アメトナリ メ（女）ハノチ（後）クタリ クニドロ（国泥）ノ ハニミヅ（地水）ワケテ
ハニ（地）ハヤマ（山） ミツ（水）ハウミ（海）ナリ...（後文略す）』と記されている。

『旧約聖書・創世記1・1-3』（劈頭聖句）...「1・始に、神が天と地を創造した。2・地は形がなく、何もなかった。やみが大いなる水の上にあり、神の霊（AVR→生命の息の意）は水の上を動いていた。3・そのとき、神が【光よあれ。】と仰せられた。すると光ができた。」

...上記（劈頭聖句）の原文とされる【カルデア語】（アッカド語）→【Berashith（ベラシト）
・ベラ・エロヒム（AVR）・アト・ハシャマイム・ブアアト・ハアレツ】→「始めにエロヒムが
天のものと地のものとを創造した。」（ハアレツ→【其の土地】）。

其の【劈頭聖句】言う【シェマ→ミコトノリ】（詔）を以て、【文字言語】（ヤマトコトバ）が創製された。然る後、後年に至って漢字が導入され、其の漢字に書き替えられた文書が【逸書・日本紀（ニホンギ）】で在った。而して、古代ユダヤの人達は、此の聖句（シェマ）を肌身はなさず持っていたとされ、従って、【大八島】（日本列島）に言う【シマ】（島）の語元は、此処に言う【Shema】（シェマ）が語元で在ったと考えられる。然るに、【日ノ元・開闢神話】の元初神に付された称号【ミコト】の語元は、【シェマ】（最初の詔）→【Berashith3910・創世記劈頭聖句】→【3910・ミコト】（ミコト・命・尊）と成す処に起因する【造語】で在った。然るに、此処に言う【数値言語・3910（ミコト）】の語元のルーツは、『セプトゥアギンタ(ギリシア語・72人訳)』（モーセ5書）に言う、【BRAΣIT】（創世記）の【語根・数値】に起因する。従って、其の【語根数値・3910】が、乃ち、【3910→命→尊】と言う図式を以て造語されていたのであった。

【創世記・アダム～ノア迄の合算歴年・8575】に、【数値・千】（千木の語源）を差し引いた【秘儀数値・7575】が用いられ、【磐余彦・東征以前】迄の【神代歴・通年数値】が設定されていた。つまり、【日ノ本・開闢神話】に始まる『日本神話』を経た【磐余彦・東征前期】（癸丑・50年）迄の【秘儀数値・179萬2470】は、現実的に言えば、『セプトゥアギンタ(ギリシア語・72人訳)』（モーセ5書）の【Berashith・創世記】に始まる【洪水伝説・ノア】迄の数値に繋がられていたので在る。而して、此の謎を解く【鍵】は、【ヤオ（八尾市の名称）の語元・解読】に在りました。

『日本神話』に言う、【神の世代】と【人の世代】の違いは何かと云えば、【数値・13】を用いて【神代・世代】（13代目・磐余彦）を経た意（唯一神の存在）を以て、【人の世代】と成ったと言う事に在ります。然し、単に、そう考えるのでは無く、『日本神話』（『秀眞伝』文書）の内容を把握（知恵を修得）する処に【ヒ・ト】（数値1→10）と成す語意が存在すると言う事です。要約すれば、【元始・ヤマトコトバ】に言う【ヒ・ト】の語意は、【始・終】的な循環【輪】的思想（蜻蛉・腎蛄）を示唆しているので在った。つまり、【神代の世代】は【第13代

目迄】（13は唯一神の数値）で終わるが、其の【第13代目・磐余彦】は、即位を以て、【初代・天皇】と設定されている処に、倭語に言う【ヒ・ト】（1→10）の語元（語源では無い）的思想（【輪】）が組み込まれていたと言う事で在る。然るに、【第13代目・磐余彦】（後に言う神武天皇）即位前期、乃ち、【東征以前・179萬2470】と成す秘儀数値の意は、[創世記]に言う「アダム→ノア迄」の合算数値（8575）と、其の秘儀数値を仲介する【フトマニ】（太占）の創設を以て、秘密裏に宣言した数値で在った。然るに、【ミコト→3910】（最初のみコトノリ）に言う【シェマ】（聞け・イスラエル）の意を以て説明すれば、【初代・神武天皇】の【三人・皇子】、乃ち、【①・タギシ耳命】（即位・以前の皇子）、【②・カムヤサ耳命】、【③・カムヌナカワ耳命】に対し、全て、【ミミ→耳】（聞けイスラエル）の称号が付されている事を以て考察すれば、其の称号的【ミミ→耳】とは、「始に戻った」（蜻蛉・臀貼）と成す意に通じ、然る意を以て【人の世代・元年】（磐余彦・即位年）と定義されたので在った。因みに、初代天皇（幼名タケヒト→磐余彦）の正室（后）は、「ワニヒコ」（大物主・三輪家の始祖）の妹で在る処の「媛蹈鞬五十鈴命」で在る。

『現存・日本書紀』（国史大系）の本文、【含牙】（フクメリキザシ・神聖・葦牙）の語意は、先述に言う『セプトゥアギンタ』（ギリシア語訳聖書・72人訳）の劈頭に記載された、其の、【劈頭聖句の焼き直し版】で在った。然るに、此処に言う【元初神・含牙】の漢字表記に対し【キザシ→牙】（倭訓が先で在る）と訓読が施されているのであるが、其の倭訓は、【キ・ハ】（木・葉）の語義（『日本書紀』・葉木国）に起因する。尚、此の語意を説明すると成れば、昭和の戦後に再発見された『秀眞伝...ホツマツタエ』文書に付いて知る必要が在る。而して、此処で簡単に説明するとすれば、【倭語・キバ】（木→葉）の語意が翻訳されて成る用語を以て【含牙】と書き表されていたと言う事で在ります。だが、此の漢字表記【含牙】に倭訓が当字に用いられたのでは無く、真実はその逆（欽明紀2年条・参照）で在る可能性が在る。因みに、「欽明天皇2年3月条」→「【帝王本紀】に古字（神名文字）多々有り。読むに難しく、後の人が書き替えた」...等と成す記事の意を考察すれば、欽明天皇期の頃、未だ、『秀眞伝...ホツマツタエ』文書内容を良く知る人物が存在していた可能性が示唆されます。

【含牙】の語意には、少なくとも「二つの方向性」が存在する。先ず、其の「方向性の一つ目」と致しましては、【倭語・キバ】（牙→木葉）の意と成す方向性で在り、其の意味する処は、【ユダヤ文字・歯】（数値・300）に秘められた【秘儀数値・300】に関する方向性で在る。尚、其の意味する処は、【エロヒム思想・数値】を用いた【日ノ本・神話】の創作で在る。そして、後に言う「方向性の二つ目」とは、【脱・ユダヤ教】では在る。其の双方の方向性が意味する処は、故国ユダヤ民族以外の地に、新たなる【カミ（上）→AL】を創設する意図に添った計画に帰依する処に集約されるので在る。然るに、其の「方向性の集約的思想」と、「従来のユダヤ教思想」とを仲介するに必要な物として創案されたのが、【フトマニ】（太占）で在り、【タカマノハラ】（高間ノ腹→原）」で在った。従って、其の祭祀（Priest）を成す意を以て創建する【ヤシロ】（社）に先立つのが、【ヒ（日）ノモト（本）神話】で在る。つまり、【日ノ本・神話】創作の、其の第一義的根元は、其の神話の中に、【唯一神】（I H V H）に因る新たなる神殿創設を可能と成す必須的制約に値する...《【太陽の町】（サモセ・数値500・k20）》...的語意を記載する事（t h e s i s・命題）に在った。因みに、何故、「サルタヒコ」が伊勢神宮に関連付けられているのかと言う事を思惟（ホツマ思想・ココストノミチ）すれば、自ずと答が導き出

されるという仕組みに成っていたので在る。

『現存・日本書紀』（偽書）の中の【日ノ本・開闢神話】に於いて、【エロヒム・思想】を探すとすれば、其の、【日ノ本・開闢神話】の...《巻頭語句・一書曰②「【膏】（アブラ）」の字意》...に存在する。然るに、此处に言う、其の「【膏】（アブラ）」の意を要約すれば、【エロヒムの霊】的意と成る。而して、『秀真伝...ホツマツタエ』文書（第16章）を適用すれば、【水に浮く・アブラ】の意に当たり、此の語意は【Berashith（創世記）】の【劈頭聖句】（1・1-2）に言う、乃ち...「天地開闢...カミ（AL）の霊は水の上を動いていた」...と記載されている聖句と同義的意味を有すの在る。尚、【アブラ】（『秀真伝』に記載在り）と、【膏】（『日本書紀』に記載在り）の語意を【エロヒムの霊・300】に当て嵌めれば、【ヘブライ語・AVIR】も当て嵌まる。然る意は、【ALHiM・霊】（含牙）で在る処の【秘儀数値・300】の事で在り、其れは「先の一つ目の方向性」の中の【ユダヤ教の存在】を意味するので在る。然る意を以て、更なる【日ノ本神話】の創作的意図は、「後の二つ目の方向性」的意図で在る処の、【脱・ユダヤ教】で在り、其の意味する処は、異郷の地に於ける新たなる【カミ（上）】の創設、乃ち、【オン（太陽の義）・カミ】（天照大神）の起立で在った。

さて、【秘儀数値】は【日ノ本・開闢神話】以後、どのように用いられているのかと言えば、先ずは【3910→ミコト】（命・尊）で在り、【300→キバ】（木葉）で在った。従って、【日ノ本・開闢神話】に続く『日本神話』は、『秀真伝...ホツマツタエ』文書に因ると、【300万年】を範疇として構成されている。其の【神話暦・300万年】を構成する【コヨミ→木読（暦）】の数値単位は【1鈴木→6万年】、【1枝→60年】、【1穂→1年】。其の1年は【太陽暦的・365日】で在る。其の「1年の年中行事」は半分（約・180日）に分けられ、「冬から春にかけての半年の守りは【エ（兄）】」。「夏から秋にかけての守りは【ト（弟）】」とされ、是れが今日迄用いられている【エト（兄弟）】の語元で在る。【秘儀数値】に関しては是れから以後、多々在るので其の都度説明を加えるとして、基本的な数値に関する説明は此处で終わりますが、さて、【脱・ユダヤ教】の意とは何かと言えば、従来の【ユダヤ教・神名】は直接的には用いず、【秘儀数値】に置きかえ【元始・ヤマトコトバ】に転化させる方式で在る。又は、全く新たな考えによる神名が造語されていたので在った。例えて言えば、「イザナギ、イザナミの誓ひ」に於ける、【チキモ・アキ】（千五百・秋）を例にすれば、つまり、其の語意を考察すれば、【IHV
H→10×5×6×5=1500】（唯一神・アキの語元）と成る。尚、【ミモロ】とは、「数値300百萬」を意味する語意で在り、此の数値（300萬）の枠の中で、我が国の【日ノ本・神話】が創作されていたので在った。

-

【日本・開闢神話】に続く『日本・神話』は【13代目・磐余彦東征物語】に繋がられている。而して、何故、【13代目】迄が神話の中に設定され、且つ、【神代13代目・磐余彦即位元年】を以て、神代から人皇（人の世代）、乃ち、「神の世代と、人の世代とは繋がっている」等と成す意を含んだ『日本神話』が創作されたのかと言えば、其れは【ヒト→人】の語元に起因する。つまり、倭語に言う【ヒ→数値・1】、と、【ト→数値・10】との【秘儀数値・言語】を以て、【ヒト→人】（1・10）と成す単語が造語されたので在るが、其処に行き着く過程に在っては、【ウロボロス】的（大蛇が自分の尾を咬む形状）な思想を、我が国に言う、倭人のトップの人達は持ち

得ていたからで在る。つまり、【数値・1】と、【数値・10】とは、循環的過程に至っては繋がっていると成す処に、【輪】（三輪の語元にも関連する）的な考え方、乃ち、思想を持ち得ていたもので在り、其の思想を以て、【ヒト→1～10】と成す単語が造語されたので在った。尚、其の思想を以て『日本神話』（神代13代目迄で終了する）も創作されていたと考えれば、其の思想の根底に、【数値・1】、及び、【単一（数値13）（ゲマトリア）】に対する考え方、つまり、【 $1 \times 1 = 1$ ・肯定】&【 $1 \times 0 = 0$ ・否定】等と成す意を以て成る、其の【輪】（肯定と否定とを取り持つ輪の意）を重んじる思想が完成されていた事が考えられる。然るに、我が国が、自国の称号の意として記述された【アキツ・カミ】（ $10 \times 5 \times 30 = 1500$ の頭）の語意、乃ち、【蜻蛉・臀帖】（アキツ・トンボが交尾する形状を以て）とは、【輪】の思想に関連付けられた用語で在った。尚、其の思想の根底に在るのは、【ウロボロス】的形狀（大蛇が自分の尾を咬んだ形状）が想定された発想に因るもので在るか、又は、【対点思想】（サイジ-））、つまり、「炭に火が結びついた状態」に因る【輪】（数値・231）の思想の可能性が示唆される。而して、其のどちらにしても【数値・13】の意、又は、【単一】（A Chz D・アカド）的な考え方に因る思想に集約されるので在る。然るに、其の【単一】（数値・1）と、【数値・13】とは、言語文字を介した秘儀数値（ゲマトリア）を以て同義的語意として扱われる事を以てすれば、【神代13代目・磐余彦東征物語】と成す創作物語は、【輪】の思想を以て、創作されていたと言う事に成るので在る。尚、此の【数値・13】に関しては、『釈日本紀』にも問題提起的に記述されている。

【兄・クシタマホアカリ】は、斑鳩（現在の奈良県）に天降る。尚、【弟・ニニギネ】は、灌漑技術の普及に取り組む事を以て各地を巡る詠（『秀真伝』文書に記載在り）であるが、其の双方の皇子（兄・弟）の天降りの中で、つまり、【神代9代目・オシホミミ】（忍穂耳尊）の皇子である【兄・クシタマホアカリ】が天降るに先だって詠まれたのが、『フトマニ』（占い）に因る【天降り・和哥】で在った。此の時として、【物部・ミタマガエシ】の和哥（現在・鎮魂の神事的な祝詞と成す）が、【天降り】を占う【和哥】として読まれたので在った。尚、其の【天降り・和哥】（占い）の、其の最初の聖句（アキニトハ）は、【神代13第目・磐余彦】の東征前に詠まれた【和哥】、乃ち、【秘儀数値・179（萬）】的語意を有す数値が折り込まれていた。つまり、【秘儀教義】を以て要約すれば、「179」の数値の意は、「アキニ」（訓読）と成す言語を意味表す。従って、其の【フトノリト・和哥】に於ける【天降・和哥】を次に記す事と致します。

《あきにとは こちにひもとけ つみのがる つぐみこころの はるぞきにけり》（太占・祝詞）

（秋にとは 東風に氷も解け 罪逃る 告ぐ御心の 春ぞ来にけり）

話しは変わるが、現在に言う「第二次世界大戦」と言う用語は、それ迄の【大東亜戦争】の呼称を、戦後、アメリカが止めさせ、新たな呼称として用いる事を強いた事に始まる用語で在った。何故、其の呼称が変えられたのかと言え、昭和15年（1940年）・第2次近衛内閣の閣議決定で【大東亜新秩序建設】と成す、其の用語をアメリカ側が嫌ったからで在る。【大東亜戦争】の名称の語意は、「欧米諸国の植民地政策に因るアジアの解放」を意味表す用語として閣議決定に基づく名称で在ったからだ。其の【大東亜戦争・開戦】は、つまり「戦時分界時期は昭和16年12月8日午前1時30分」（世界時間とには時間差が生じる）と決定されている。因みに、其

の日、つまり「日本時間午前2時15分」に英国とインド国の連合軍との交戦（マレー策戦・宣戦布告前）に因って、其の戦の先端（現地時間との時差が生じる）が開かれたとされている。

【大東亜戦争】の開戦に至った経緯は、昭和16年（1941年）11月26日にアメリカ国務長官であった【コーデル・ハル】が、日本政府に通告してきた文書、乃ち、【ハル・ノート】に対し、其れは「アメリカからの最後通告」と日本側は受け止めた。而して、其の戦後、【極東裁判】の判事として列席していた【バール判事】は、つまり、『判決文...日本無罪論』の中に於いて...《【ハル・ノート】と同等の通牒を受け取った場合、【モナコ王国】（ルクセンブルグ大公国）のような国でさえもアメリカに武器（矛）を取って立ち上がったであろう》...等と記され...、又、【アメリカ陸軍元帥】（GHQ最高司令官）だった【ダグラス・マッカーサー】自身が、【上院軍事外交共同委員会】（昭和26年...1951年5月）に於いて...《「此の戦争は日本国の自衛戦争であった」（日本国は悪くないと言う意味で在る）》...等の趣旨を述べている。

先述の【フトマニ・祝詞】（フトマニ文書は『秀真伝』文書の姉妹書的文書として現存する）に言う...《告ぐ御心の【ハル（春）】ぞ来にける》...と言う、其の我が国の最古的古文書で在る処の【フトマニ・文書】を以て、【穿った見方】を成せば、乃ち、「我が国（ホツマ国）の建国思想」の意とされる...《【ホツマ】の意は良く整った国の意》...と成す用語とされており、其の語意は、【古語・ワイタメサタム】（【Y・タメ定む】）の語義に起因していて、其の語義に至っては、『セプトゥアギンタ（ギリシア語・72人訳）』（モーセ五書）に記された【レビ記25・ヨベル年】に言う、【奴隷解放・思想】に通じている。しかして、其の語意を以て解釈すれば、「我が国の建国（元始・ヤマト国）以来」、乃ち、「日の本国の創建以来、約2000年程の時を経た近世の昭和時代」に至るも、尚、【大東亜戦争】と言う用語を用いて、【ヨーロッパ植民地政策】に対する【アジアの解放】的発案（大東亜戦争）が在った史実に至っては、「西洋列国に因るアジアの植民地の解放」（【春ぞ来にける】）の意が、我が国の建国起元思想（現在から遡る事、約2000年程過去の時代）に共通し、【極東裁判】（東京裁判）の判決に至っては、【日本国・無罪】を言い当てているようである。然るに、【ハル・ノート】に言う【ハル】の言語に対し、【春ぞ来にける】の意とする解釈を当てれば、尚、我が国の建国思想の第一義に相当する思想、乃ち、...《贖罪からの解放》...等と成す義を以て解釈すれば、又、違った答が導き出されるので在る。つまり、我が国の建国思想（奴隷解放）を「近代史」に当て嵌めて考えれば...《アジアに於ける植民地の解放》...の意にも繋がる訳で在る。然るに、【日ノ本・建国思想】の第一義的思想で在る処の【贖罪から解放の義】が【植民地政策からの解放思想】に通じると言う訳で在る。然るに、我が国の建国元年（紀元1年）から計算すれば、【約2000年】程の時を経た「近世・昭和時代」に至っても、未だ、其の、【奴隷解放の義】（T→耳を穿ち額に印を付ける義）的思想は途切れずに繋がっていたと言う意味として解釈出来るので在る。

再度言いますが【穿った考え方】をすれば、【我が国（ホツマ国）の建国思想】の、其の思想中の一つで在った...《秩序を重んじる→神功皇后紀》...と成す意が、当時（三世紀頃）に於いては存在していて、而して、近年の昭和時代に至っても、尚...《秩序を重んじる》...意が、未だ、厳格的に守られて来ていたと言う事に繋がっていたと解釈する事が出来るので在る。因みに、【

歴史の道を踏む道標】とは、つまり、【麓】（国字・フモト）の語元（語源では無い）を以て解釈すれば、【フモト（麓）】の語元とは、歴史的な文書（道標の意）に対して用いられた用語で在って、【ヤマ】の意は、【Godの別称・ヤー】の意と、【マ】（汝は存在する意と訳す）との義を以て造語された処に、此の語元（造語）が在る。然るに...《先師（大祭司）の歴史書（『秀眞伝』）を読む》...と言う意味は、【フミ（文）】を【フム（踏む）】の意で在った。つまり、文書を読む意を以て、【フムモト】（フモト→麓）と成す処に、【フミ→文】の語元が在って、其の原点は...《【カミ（上・AL）】の大道的、【道（文書）】を【フムモト】（麓→入口）に立つ》...と成す語義（道の頂上を目指す意）を言い表していたので在った。従って、『秀眞伝...ホツマツタエ』文書を読む事に因って、【日本人のIdentity（アイデンティティー）】を取り戻す事が出来るので在る。

現在の西暦年に言う「2月11日・日本建国記念日」の、其の月日の設定は、『現存・日本書紀』（偽書）に記述されている【庚辰（17）・朔日】に対し、【太陰暦】的に換算した方式を以て設定されたとするが、実際的に、其の『現存・日本書紀』（国史大系書）を検証すれば、【太陰暦】では無く、【太陽暦】に基づく【立春・元年】（自説）が正しいので在る。此の事は『日本書紀』の【磐余彦・即位前紀】（日本書紀・巻第三）を良く検証すれば解る事で在る。然るに、古代、我が国は【太陰暦】と【太陽暦】の双方（太陰太陽暦・閏年月日設置方式）の暦法を用いて神道の神事に対応（特殊な暦法）させていた。其の当時の時代は何時頃の事なのかと言えば、現在の【文献史学者】達が、研究を放棄した事を意味する用語で在る処の【缺史八代・説】に言う時代に当たっているので在るが、其の時代の事が記載された文書、乃ち、『現存・日本書紀』（偽書）の原典に当るのが【逸書・日本紀（ニホンギ）】で在り、其の、【逸書・日本紀】の原典書的な文書が『秀眞伝...ホツマツタエ』で在るという事で在る。而して、此の『秀眞伝』文書は、【日ノ本・開闢神話】に始まり、【初代天皇・タケヒト（後に言う神武天皇）】～【第12代・オシロワケ（後に言う景行天皇）】迄で終結した文書内容と成っているので在るが、其の意味する処は...《『秀眞伝』は聖書として書かれた》...と言う事を意味しているので在る。

我が国は古来より【カミノクニ】と呼ばれていたとされているが、其の意は、【我が国固有の民族宗教】で在る処の【神道】の、其の最高神で在る処の【天照大神】を祀（祭）る【伊勢神宮】建築様式に対し、【唯一・神明様式】と呼ばれ、特別視される処に【カミノクニ】と成す秘密が隠されていた。尚、【唯一・神明様式】の形状に至っては、【幾何学的形状文字】（筆者・命名す）の、其の字形が組み込まれて成る神殿様式を以て、【唯一・神明様式造】と呼ばれる由縁で在る。尚、【幾何学的形状文字】、及び、其の【文字言語】（元始・ヤマトコトバ）自体、既に、【カミ→AL】の【霊・御魂】が宿っているとされた処に、【元始・ヤマトコトバ】には、「カミ（AL）が宿っている」と定義されたので在って、従って、我が国は、【言霊が先交う国】と呼ばれた由縁で在る。

【ヤシロ→社】の語元を解釈すれば、【ヤ】（ALの御名）、乃ち、【IHVH】（テトラグラマトン）と、【シロ】（S I L・340→メシアの数値）との、其の双方の語意の組み合わせを以て、其の語元と成っていた。つまり、【ヤシロ→社】の語意を要約すれば...《【Messia（救世主）】が坐す神殿》...の意となる。然るに、【角刺形・千木】（伊勢神宮・様式）の語元に至っ

ては、乃ち、【伊勢神宮・角刺形】に言う【角刺形・千木】の形状の原型は、【幾何学的形状文字】（Canaan字・カナ-ナ字・神名字の語元）が組み込まれた形状（言霊の存在）で以て創建されていて、其の【幾何学的形状文字】の字形の儘（ママ）に、【チキ】（ホツマ文字の形状の儘に読む）と呼ばれたので在った。此の【角刺形・千木】、及び、【置・千木】の語元を筆者が解読したのは、【昭和61年・1986年】の初夏頃で在った。従って、其の内容を書いて、「哲学者・梅原猛氏」に手紙を出しましたが、返事は在りませんでした。然し、其の一週間程後の、「毎日新聞夕刊記事（昭和61・1986年8月22日）」に、其の返事に似たような記事が掲載（コラム欄）た）されました。

【千木の語元】に関し...つまり、【千木】の語元解読にチャレンジしたのは、其の解読の日の約1年程前の「毎日新聞夕刊（梅原猛氏の記事・コラム欄）」の記事に感化された事（我が、インナートリップの旅に終止符が打たれた）に在りました。然るに、其の時の夕刊記事に因りますと...《「千木の語元は解らない」（梅原猛氏・説）とするのが現状で在る》...等と記されておられました。然し、其の記事に感化された事に因って、【幾何学的形状文字】の研究に力が入り、以て、其の1年後、其の【千木】の語元を解明した次第で在りました。尚、昭和の戦後（昭和41年）に『秀眞伝...ホツマツタエ』文書が再発見（再発見者・松本義之助氏）され、今は、全国の図書館、及び、全国の書店等で『ホツマツタエ』（『秀眞伝』）に関する諸本が沢山販売されています。従って、『秀眞伝...ホツマツタエ』文書は、我が国に於ける公の場に於いて、既に、市民権（以前は抹殺的運命に在った）を得た文書と成っております。

「千木の語元に先立つ語根」を筆者は【クムラン・遺跡文字】（紀元前一世紀頃）の中に見出し、更に、【唯一・神明様式】の中に、倭語（母国語）に基づく【千木の語元】を「昭和62年（1987年）」に見出した経緯等を以て、【私のホームページ】...《<http://w01.tp1.jp/~a098477294/>》...に記載しています故、【千木】の語元解明に至った経緯等の詳細的説明は省かせて頂きます。而して、【幾何学的形状文字】で構成されている『ホツマツタエ』文書に関する事が、他の歴史的文献に記されているのか等の事を調べてみると、【秀眞國→袍図莽句爾】と記された文献を見出しました。其の文献とは、『現存・日本書紀』（国史大系）で在りました。然るに、其の文献の【神武天皇31年条】の処に【秀眞國→袍図莽句爾】と記載されております。

【磐余彦（後に言う神武天皇）・東征物語】の原案は...《『ジェームス・C・アンダーカム著『死海文書のすべて』（秦・剛平訳／青土社発行）》...の、其の文献の中に筆者は既に見出しています。従って、其の『死海文書のすべて』の本の中の、其の一部分を引用すれば、つまり【メルキゼデク・テキスト】（11Q Melch）の解釈文と致しまして...《ヨベルの年と負債の免除に言及するレビ記25・13と申命記15・2で始まり、その二つの章節に、終末に語りかけていると理解されるイザヤ書61・1（「捕らわれ人に自由を告知する為に」）が加えられている》...と、其の『死海（遺跡）文書』の本は記していますが、尚、其の文の、其の後に続く文面に於いて、更に、日本語で翻訳されている箇所に至っては、我が国の歴史書に於ける【磐余彦（後の神武天皇）・

東征物語】の原案部分に相当する文面に当たっていると言う事を見出した処に、此の謎を解く【鍵】（八尾の語元の解明）を見出した次第で在ります。

...《【ヤオ】（現在は八尾市の名称として採用されている）の語源解明》...を以て、【日本国家・建国基点設定年】、及び、【ヤオ（八尾市の名称）の語元・解読】の【鍵】に関する説明等に関しては、別の文書に譲ると致しまして、話しは先へと進めさせていただきますが、【カンヤマ トイハワレヒコ】(神倭磐余彦)の東征物語が創作された意味は、先述の『死海文書』の中の、其の謎解きの【鍵】の部分に当ります。而して、其の地域の名称（呼称・ヤオ）と致しましては、現在の【八尾市（大阪府）】の名称と成っている次第で在ります。然るに、其の八尾市の地域は、其の昔、【旧・大和川】（現在の長瀬川）が流れていて、其の川（旧・長瀬川）に沿いながら行く道に、現在も【神武町】と言う町名が残されています。然るに、其の【磐余彦・東征物語】に起因すると考えられる【道標】が、つまり、【蛭目（ヒルメ）】と書いて【送迎（ヒルメと読む）】と言う、其の石の【道標】が、現在【八尾市】の或処（植松町）に保存されている事を知りました。而して、此の【道標】の由緒は、「磐余彦の東征を、地元の人達（古代、河内と奈良に繋がる地域の人達）が歓迎した」等と成す伝承を以て、保存されている次第で在りますが、此の情報と致しましては、大阪府の【河内地域史】を取りあげ、其の情報の発信をされている雑誌、乃ち、『河内どんこう』（VOL・2・№5号）と言う雑誌（やお文化協会・発行）に因って、其の【道標】（磐余彦・東征に関連する）の存在を知った訳で在りますが、其の、詳細的な事に付きましては、『河内どんこう』の雑誌を一読にされたし。

...《【ヤオ（八尾）の語元】を知れば【元始・ヤマト国家創建年】及び「設定・基点年」が解る》...

我が日本国の古代史に関しては、全く無関係だと考えられていた【世界歴】（神武天皇・即位元年設定に起因する）、乃ち、『旧約聖書...創世記』に始まる【創世記歴・基点年】、及び、【西暦元年・設定基点年】が、『秀眞伝...ホツマツタエ』文書の研究に因って、密接なる関係で在る事が解った次第で在ります。従って、其の謎を解く【鍵】が、【ヤオ】（八尾市）の語元解明で在ったと言う事で在ります。而して、此の謎解きに対し必要不可欠な文書が『死海(遺跡)文書』で在りました。然るに、【クムラン・秘儀宗団】の人達の中に於いて、更なる其の宗団のトップグループを形成していた人達の、尚、其の系譜に繋がる人達が、古代、乃ち、今から【約・2000年】程昔、イスラエルの地を離れ、極東を目指し、辿り着いた此の列島に於いて、『秀眞伝...ホツマツタエ』と表題する文書を書き残してくれたお陰を以て、私が幼年期頃からの念願で在った【日本語の始まりが知りたい】と言う願望が叶えられた次第で在ります。

現在、『秀眞伝...ホツマツタエ』文書に関連する本は、多々、出回っていますので、此の『秀眞伝』文書の出自等の事に付いては省かせて頂きますが、此处で、特に注意しておかなければ成

らない事は、『秀眞伝』文書に付いて書かれている諸本の、其の殆どの本が...《縄文時代頃に作られた文書で在る》...等と定義された内容に成っている処に問題が在ります。つまり、『ホツマツタエ』文書を構成する文字、乃ち、【幾何学的形状文字】（落合直澄命名は【伊豫文字】と命名している）に対し【縄文時代の人達の文字】等と言う人達の、其の説に至っては、【空想的】な説の域を出ません。而して、其の【空想的・根拠】に至っては、「神武天皇即・位元年を紀元前660年」と成す、【那珂通世・説】（嘉永4年・1851年～明治41年・1908年）の、其の【識緯説】自体が【空論説】で在るにも拘わらず、其の紀年数値に言う【神武紀元・前660年】と成す数値を、単に、ソックリ、其の儘に受け入れているに過ぎず、なんら、【考古学的資料】に基づく検証も成されていない説で在る。つまり、【考古学的資料】の根拠が無い説の上に展開されているのが、其の、【幾何学的形状文字】が、【縄文時代文字・説】と言うが、然し、『秀眞伝』文書は、【縄文時代の文書】では決して在りません事、然りで在ります。

【元始・ヤマトコトバの起元】に付いて説明するとすれば、先ず、其の【元始・ヤマトコトバ】の根元は、【文字言語】で在ったと言う事で在り、従って、其の【元始・ヤマトコトバ】の言語に先立つには、其の基で在る処の【言語文字】が存在しなければなりません。然るに、【元始・ヤマトクニ】（袍図莽句爾・秀眞国）に於ける文字と成すのが【幾何学的形状文字】で在りました。而して、其の【幾何学的形状文字】の根元は、【古代・ユダヤ民族】の中に在っては、【紀元前2世紀頃】に派生したとされる【ダマスコ・契約宗団】で在りました。尚、其の【ダマスコ・契約宗団】の中に在っても、其の【トップ宗団】の人達が、秘密裏に創製した文字が、【幾何学的形状文字】で在ると筆者は特定しております。其の根拠と致します処は、【ダニエル書5・24-28】の中に記されている【godhand（神の手）文字】（其の場の殆どの人達が読めなかった文字）に当る部分で在ります。此の事に関する説明も等も、又、別の文書に譲る事と致しまして、話しを先に進めさせていただきます。

筆者説が、単なる文書だけの説で在るとしては、単なる空論的誹りを免れぬ故、【ヒエラルキー構図・図表】（汎用CADを使用）を作図（完成）させました。更に、【ヤオ（八尾市の名称）語根起点・図表】も作成した次第で在ります。而して、此の図表の作成に行き着くには、文献資料は勿論の事、尚、其の文献資料の中でも、特に【考古学的資料】を重要視してまいりました。然るに、【ヤオの語根数値・設定起点図】を、画像として撮り込み、其の画像の図表は、此の本の表紙として用いる事としています。尚、此の画像の図表は、製図等の精密な図形を描く【CAD（キャド）・ワット】を用いております故、【1ミリ→0.001】の狂いもありません。従って、【1ミリ寸法巾→歴年数値1年と設定】して成す図表に於いては、『秀眞伝』文書の歴年数値を採用し、【通年の歴年】として取り込んでいます。尚、【初代神武天皇・誕生年】を記す『秀眞伝』の【天鈴暦】に於いて、其の歴年の基点を設定する段階在っては架空の地点を立脚点と成しているも、【タケヒト】（後に言う神武天皇）の「東征開始の数値（天鈴暦キミエ・51年）」年に至っては現実的世界暦（紀元前8年）に近づけられていたので在った。尚、【タケヒト・即位元年】（天鈴暦サナト・58）に対する歴年は、世界暦に名を残す【ローマ皇帝・アウグストゥス】（在位28年目・満62歳→西暦1年に当る）と定義しております。

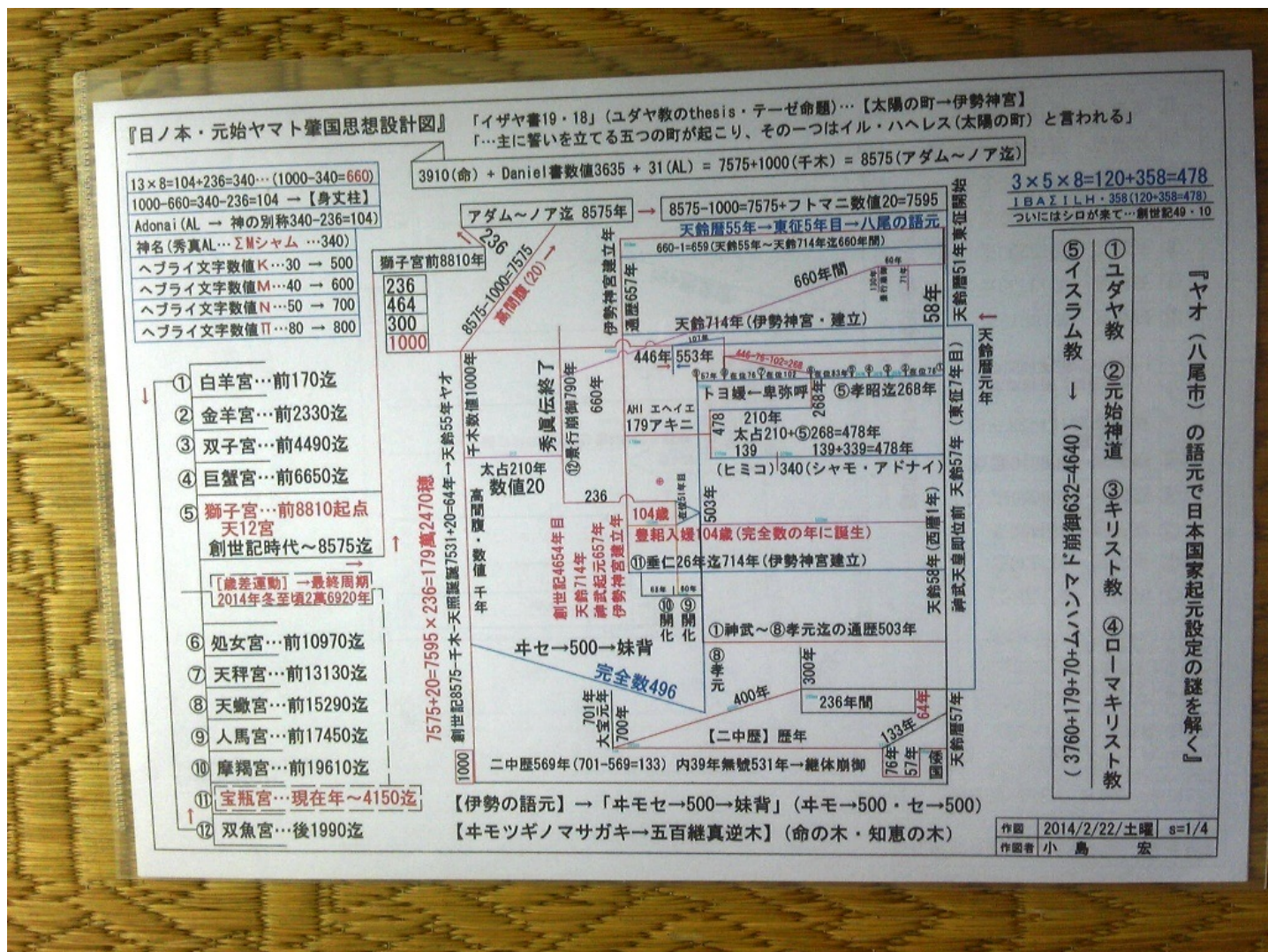


... 八尾（市）の語元は【メシア・来臨基点数値】に起因する...

<http://p.booklog.jp/book/82221>

著者：小島 宏

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/erusaremu464/profile>



...次（下記）の文書は、今から3年前、【東日本・巨大地震】（2011/3/11）が襲った、其の被害の大きさに感化され、直ちに「インターネット接続・開始」を申し込み、以て、其の「プロダイバー」（トッパー）のホームページ(無料)に掲載した文書です。然るに、今から約3年前、此の文書を一番最初に投稿した意は、【東日本・早期復興】に関し、「非力ながらも何か力になる事ができたら」と言う思いからで在りました。然し、其れから三年程を経過する今年「2014/3/20(木曜)」を以て、「プロダイバー」（インターネット接続会社）を変える事と成りました。従って、此の文書は抹消される運命に在る為、引越しの、【パプー・電子書籍】（下書き中・公開します）の処に貼り付けた次第で在ります。而して、私は文書の書き方も知らず、まして、学校での勉強を放棄した我が身に於いては、文書の書き方を覚えねばならず、イザ、として書いた次第であります。初めてのパソコンに至っては、先ず、パソコンの使い方から始めなければならず、文書の修正は後回しと成っていた次第で在りました。

...此の文書の手直しはさることながら、貼り付けた結果、其の書式の違いで、文字詰め、行間のズレが多々あり、多少は其の書式に於ける違いは少し修正しましたが、是れ以上は素人では無理でした。然し、時間をかけて修正、及び、加筆していく予定で在ります。而して、「現在は、此の文書の、脱字、誤字等は未だ修正せず、其の儘の状態に貼り付けております」事、よろしく...

...先ず、何故、最初に此の文書を書いたのかと申しますのは、我が国の【元始・ヤマト国家創建】以前、つまり、【日ノ本・建国】（紀元・前後頃）の建設過程に於いて、最初に其の拠点を構えたのが古代期に於ける【ヤマト思想・秀真国】（古代・元始期の国号）、乃ち、現在に言う【東日本・地域】で在ったからでした。然し、「何処の馬の骨かもしれない者」（昔・彼女のお父さんに言われました）が、尚、いきなり、このような記事を書いたとしても、「空想的な物語」と成す排り免れず、従って、先ず、此の境地(日本語の始まりが知りたい)に至る迄の過程的内容を提示しておく必要性を私は強く感じたからで在りました。

...此の文書の掲載後、乃ち、古代、我が国の建国以前に於ける【東日本・地域】は、「良く整った国」（古代・東日本地域）の意を以て【ホツマクニ】（袍図莽句爾・秀真国）と命名され、其の、【袍図莽句爾・秀真国】建国思想（日本神話の中に組み込まれている）をモデルと成し、【元始・ヤマト思想国家】の建設的活動が開始されたと言う事等の研究内容等は、さて置き、此の記事（旧表題→日本人アイデンティティー求める）を先ず投稿した後に、発信して行く考えで在りました。

...而して、最終的には、此の、【元始・ヤマト国家】の創建者達は、「紀元前・31年」に、【ヒルベト（廃墟）・クムラン】（英語・キルベト）の居住地（古代・ユダヤ民族の地）を襲った【巨大地震】を契機と成し、極東の島（現在の日本列島）へ移動（旭日崇拜・思想）して来た【クムラン・秘儀宗団】者達、乃ち、【クムラン・ダマスコ契約宗団】で在った事を知らせたかったので在りました。然し、東日本を襲った「巨大地震・直後」、或いは、其の数年間程の間は、此の事は必要以外（神経の逆なだち的意を憂慮して）には書かないようにしようと思がけてきた次第で在りましたが、「プロダイバー」（接続業者）を、今回（2014/3/20）を以て、替える事と成り、其の引越しの過程に於いて、今、此処に説明する次第で在ります。

尚、此処に貼り付けている...【http://w01.tp1.jp/~a098477294/】（私のホームページ・URL）...の番号も、上記の説明を以て、其の期日を以て削除される予定で在ります事、宜しく...以下、次の文書は、其の、「旧→ホームページ・文書」の貼り付けで在ります事、よろしく...

日本人のIdentity (Japanese&etymology) を求める

『ハマボウ(黄槿)の花の下で』より

...2011年3月11日(金)...東日本に...極大地震・津波発生...

【元始ヤマト文字言葉の基点】

東日本は、其の昔「袍図莽句爾／秀真国」と呼ばれ、我が日本(Japan)の国は、其の昔、「袍図莽句爾／秀真国」の創設（創建先だつて）に因って始まりました。「袍図莽句爾」（良く整った国の意）の名称は、『日本書紀』（神武31年条）に記載が有り、又、其の我が国の始まりは、日本神話に記述されていますが、其の、我が国(Japan)の原初神(國常立尊)、及び、其の原初神の尊称語「尊／命／美拳等／ミコト」の語根は、古代Israel（イスラエル）のBible（アッカド語・バイブル）である処の、【Berashith／創世記】（始めに）を意味する文字（自説）言語が、其の、【ミコト→命→尊】の語源で在り、語根でありました。

「昔、伊弉諾尊曰、此国曰、日本者浦安国、細戈千足国、磯輪上秀真国(袍図莽句爾)」

り)

当自説...、【元始ヤマト文字言葉・基点研究】は、日本の、【国家創建・問題】を解決する事が出来ます。従って、我が説は、従來說、つまり、「縄文文化の延長上に繋ぐ文化が嵩じ、大和國家が誕生した」等の、好い加減的(通説)な説(研究)ではありません。又、『日本書紀・神代④』記述の、原初神(含牙)を、「アニミズム」、又は、「フェティシズム」説に付す方式は、『日本書紀』の神意性を無視する偶説であります。

私の、当研究に至った起因、及び、本説に行き着いた経緯を、次に簡略的に記します。

1949年(冬・筆者2歳)... 私の家族は夜逃げして、叔父の家での生活に入り、その最初の初夏。浜辺(の傍)の木(3本)に、真黄色(昨日は無かった)の形状を初めて見た瞬間、その色の美しさに驚き、その色と形状の存在を尋ねるが、その問いに対し、家族の誰もが答を知らず、其の存在は、[木](語源を追求した)である。に止まりました。1955年(8歳)。私(小島,宏)は、啓示的言葉...「自分にしか出来ないことがある」...が天から、Inputされました。其の日の朝飯(麦3~4割)にソーメンが混ざってあったので何も食わず、昼下校後、空腹を我慢して、粘土運搬用の小舟に仰向になり、ボンヤリ空を見ていた時でありました。鋭線が一瞬、額を突き抜け、其の瞬間、我が無意識下(空白)に、彼の言葉が刻み込まれていたと言う次第です。其れ以来、其の言葉(秘密)は、**Command**(内意的支配言語)となっていました。後年、大阪の某会社に就職(当時、金の卵と呼ばれた)し、会社を転々とした後(27歳)、自由な時間確保(フリーターの生活)に伴い、居住地(羽曳野市)を八尾市に移したことが運命の岐路となりました。乃ち、... 際会(**bychance**)...の、彼の女性(大阪府八尾市・喫茶**ラブリー**)に出会って、当日の其の人の親切以来、当時、信頼していた人に裏切られ、退っ引きならない切羽詰まっていた我が心は、少しずつほぐされると同時(無学な私は)に、読書や辞書引き等の「学ぶ心」を教えて頂きました。而して、我が幼少時、初夏から初秋にかけて真黄色の花を咲かせていた彼の3本の木は、私が小学3年(5月)の時、佐賀県伊万里市、国道(204号線)拡張工事に伴い、浦之崎(高尾の鼻付近)の断崖下に位置した叔父の家(我が家族も同居)は、半強制的に立ち退きを余儀なくされ、私が小学校(3年生)から帰ってみると、見るも無惨に切り倒され変わり果てた3本の木を目の当たりにした時の哀れさは今でも忘れません。...等経緯の我が無意識下(木の語源に拘る)...は、**Command**(内意・支配言語)を以て操り続け、其の結果、何時しか私は或運命の道に引き摺られていた次第であります。其の結果...某(有名)哲学者説記事(昭和61/8/22/金/毎日新聞夕刊)に遭遇し、其の夕刊記事の冒頭文を読んだ直後...「我がインナートリップの旅は此处で終った」...と認識(cognition)すると共に、直ちに[鳥居/千木]の語源究明に着手する決意を固めた次第でありました。其の翌年(8月始)、遂に[千木]の語源を掴み取った...その瞬間...我が幼少時の出来事(場景)が鮮やかに脳裏に蘇り、「木...に対する語源追求場面」、つまり、「真黄色の花の下で」の場景を思い出し、**Command**の正体とは、「日本語の始まりを究明せよ」である。と私は認識した次第です。而して、其の夕刊の冒頭記事に遭遇する起因的経緯は、2回目の**bychance**(際会)でありました。つまり、彼(和美さん)の夫婦に、某蕎麦店で偶然出会って、其の彼女とすれ違った際(呟き語murmur)の、「...リッパニナッテ...」を、聴き逃さず、其の語意を受け、新たな環境変化を模索し、決断した行動から、数年後。其の某蕎麦店に於ける某哲学者記事(夕刊記事)との遭遇(offset的)に到った次第であります。そして、[千木の語源...解明]に至り、[千木]の語根(アエ/チ/エ)Rootsを糸口(keyPoint)とする【仮称・創造神社儘文字立証学】の立ち上げに関する研究グループとして「天王寺会」(現在・発展的解散)を発足させました。其れ以降、当説の初期完結を意味する【完成・創世記起点&神武紀元曆図】を以て、[当説本旨・第1次研究]の終了と致しました。

次の、[当説本旨・第2次的研究]の、其の参考文献は、『DeadSeaScroll(死海巻物/文書)』時代に遡る古代西洋史に関連書致します故、従来的、日本古代史研究法式、乃ち、『記/紀』信奉に因る「日本古代史研究法式」に従った、暫定的国家起源設定に対する考察的研究では有りません。つまり、「日本國家の起源は解らない...を前提にした従来的研究」と違って、当研究内容はは、「日本國家起源を既に解明した...を前提した原初ヤマト思想追求的研究」であります。従って、「超・古代史研究法式」、「日本・ユダヤ同祖論」、「失われた十種族論」とも違います故、誤解無きよう御願致します。又、秀真研究の第一人者である、松本義之助氏に対しては、当研究法式の違いを伝えた経緯(昭和62年)があります。以て、其の「日本古代文字文献研究会」(松本義之助氏/主宰・古文獻)とは、既に、決別致しております。

当研究の本旨に於ける方向性は、[世界史/ユダヤ民族史]の、[Mesia来臨思想]に起因する[唯1神明様式]を通じて、21世紀に於ける[1神教(monotheism)]の在り方等にあります。其の第一歩として、先ず、『DeadSeaScroll/死海文書』発見迄は、其の存在が闇の中にあった[QumranSect]が、[元始ヤマト文字言葉]を創ったと致します当自説の裏付けの...[Qumran.Sect/Japanese.Etymology]...復元図表的...【完成・創世記基点&神武紀元曆図】...の存在表明の必要性であります。而して、その思想追求に対し、文字意を以て表現するとすれば、取り敢えず、[Jerusalem.Ascension.of.Japanese.only.one.shrine.Exist](エルサレム昇天&伊勢神宮唯1神明様式、嚴格的証明)と表記しておきます。

当説、「日本・開闢神話&神武東征物語」の創案は、「DeadSeaScroll/死海巻物/11Q Melcht」中にあります。その文書(原案)解読以て為す第一義は、[Japan, original, word]、乃ち、[唯一神明造](伊勢神宮)

の形状を以て説明出来ますが、具体的解読法は、現在、秘密主義と致します故、公表は差し控えます。而して、当説の公表的発表を進めてくれた、[天王寺会・北村氏]の[義]を受け、houmpage(ホムページ)開設を以て為す掲載法を以て、【完成・創世記基点&神武起元歴図】(0211年3月31日・Home page掲載)の存在を明確すると共に、其のHome pageを以て、当説の[著作権]の行使とさせて頂く所存であります。尚、その図表の内容は、『旧約聖書』創世記(Berashith)から、神武東征物語(紀)を経て、持統天皇(紀・讓位年)迄の歴史であり。そして、其の在位年数の数値は、秘儀に従ったって考察すれば、数値配置の正確(継体問題解決済)さを立証する内容と致しております。

而して、当図表完成報告に至る迄(彼女に学ぶ心を教えてもらってから)の、我が能動的根元(源)を、今、思いやれば、やはり、当時、もう二度と会えないと思っていた矢先、又しても偶然的な【際会・bychance】に起因する呟きの「murmur／リップ・コナテ」(すれ違い際の呟き語)の語意を、必至に聴き逃さず、心機一転、新たな展開を模索した処に、彼の夕刊記事との接点場所が自動的に選択されていた次第であって、其所を当研究の第一歩と為し、図書館利用の開始を以て、彼の黄色い花の名称を、羽曳野市立図書館(43歳)の植物図鑑(写真)で、「ハマボウ」(黄槿／沖繩名・ユウナ)の名称を知るに到った。その後(44歳頃)の、交通事故(41歳)による後遺症が少し癒えた頃、再び当研究の続きを開始するに当り、彼女の言葉(呟き／murmur)の成就を、心に誓ったことが、当説の原初的到達地点に辿り着いたのだと思う次第であります。

1986(昭和61)年の毎日新聞夕刊(文化欄)記事...、その記事の冒頭語句(某哲学者説)を要約すれば...「寡聞にして〜鳥居の語源に定説無し」...等の意味が記述されていました。其の、深意的冒頭語句に対し、あたかも喉が渇いていたかの如く、一気に水を飲み込むが如くに、其の語意の深意を一気に吸収し、同時に、「私のインナートリップの旅」(約10年を経過)に終止符を打つと同時に、冒頭語句の深意を以て、[鳥居／千木]の語源究明をに着手した。其の翌年夏、[千木]の語源解明を果たし、[千木]の語根の特定を以て、【創造神社儘文字・立証学】(仮称)の仮称学説に立脚すれば、其の検索法式が容易に捗って、遂に『死海遺跡(1947年発見)文書』中から、『日本書紀』記載、「神武東征(数値的基点)物語の原案」を探り出した。其の原案の証明と為すのが、『日本書紀』神武31年条に記載する[ヤマト思想]の原点名称(袍図葬句爾／秀真国)に関連する、[pesher／學術用語]を以て探れ出される[神の存在／文字]を秘める、[唯1神明(造)様式](伊勢神宮)の現蔵存(Exist)証明であります。又、[Mesia来臨思想宗団]、乃ち、[QumranSect]が創案した[pesher文字]の蔵存証明は、[鳥居]の形状を以て説明するも然り、...【完成・創世記基点&神武即位／紀元暦】に関する当説は、当ホームページ(Home page)【<http://w01.tp1.jp/~a098477294/>】の、次の「新規第2ページ」にも記載しています。

自説...、【元始YAMATO文字言葉／起元解明】を以て、従来の「日本・古代史研究」、又、「超・古代史研究」、「日・ユ／同祖論」等とは、根本的に相違する故を、此处、に表明致します。而るに、当説に言う、「原初・ヤマト文字言葉」の、其の語根解読法式(Japan original word)の基点と致しますのは、Alphabet発祥地、乃ち、地中海沿岸文化圏の神話思想を有すQumranSectが、其の昔、極東思想(エノク書思想)を抱き、意図的に極東移動した末、辿り着いた島(現在の日本国)にて、日本(袍図葬／秀真)国(東日本地域を拠点とする)を創建したと仮定すれば、「漢字以前・我が国に文字が無かった」とする従来説は成り立ちません。而るに、当説に言う【元始ヤマト文字言葉】の痕跡を、「仮名／字」(『釈日本紀』参照)と考えれば、『旧約聖書』の「アブラハムに与えられた地／Phoenicia」を意味する「Canaan」と定義される故、[カミ]の語意は[神]で無く、自動的に[上]の語意が選択され、其の[カミ／上]の確認は、[唯一神明様式]の、[AHVH]の存在(蔵存／Exist)である。と、当説は致す所存であります。

home page【<http://w01.tp1.jp/~a098477294/>】(ホムページ)

小島 宏... 電子メール「dvd464236@hb.tp1.jp」

Google電子メール「erusaremu464@gmail.com」

幼少時に受けとったCommand、乃ち、[内意的・支配言語](我が無意識下にインプットされた言語)に対する使命感に従い、黙々歩き続け、其の途中、多くの人達(北村氏の後押し等)に助けられた末(自説完成報告迄)、現在に至り得たことに対し、当書を以て感謝の意とさせて頂きます。そんな今(65歳)、過去を振り返れば、孤独的環境の儘に歩いていたならば、当然、当結果に至っておらず、若し、彼の女性との2度目のbychanceが無ければ、今頃の私は、何処かで野垂れ死にの運命を辿っていたこと間違いありません。而して、当研究の糸口(keyPoint)となった[鳥居／千木]の語根発見に至った経緯を、ストーリー的に文書に纏め、某投稿募集に応募(昭和63年)した、其の投稿文書の表題が、乃ち、『ハマボウ(黄槿)の花の下で』でありました。其の、ハマボウ(黄槿)の木が生息出来る環境を考えれば、日本海側(佐賀県・伊万里湾)での生息は、稀(南方海岸塩地に多く生息する)であり、其の[稀なる木]が、幸運にも我が家の傍に生息していたことが、我が運命の道の第一歩であった。つまり、彼の花の美しさに驚き、「木」の語源追求に拘り続け、その拘りは、何時しか我が無意識下に潜むが、やがて[千木]の語根を掴み取った時(pesher/ペシェル文字の存在)、我が幼少時(浜辺の一軒家・瓦製造業)の、「黄槿の木の下」での出来事が蘇った。乃ち、幼少時は、其の[花の木の下]が、我が独りだけの遊び場であった。又、小学2年の音楽(音楽の教科書は買えなかった)の時間に、チラッと聞いた彼のメロディーも、我

が心の友となっていて、其のメロディーは今でも私の頭の中に流れてきますが、その曲名、歌詞、題名を知らず、惟、モヤモヤとした時間を長年経た今(65歳)、ヤット其のメロディー(曲名)を探り当てました。それは「シモネッティ作曲・マドリガル／羊飼いの」であった。而して、我が幼少時、一瞬の鋭線に因って、インプットされた**Command**(内意的・支配言語)に対し、「**我が将来...何処かで何かが待っている**」と思い続けた彼の、秘密言葉の存在を訪ね歩き、その今(2011年3月31日)、当責任を終えたと思えば、彼の「黄色い花(**黄槿**)の下」での数々の思い出、又、特に憂鬱な時に限って我が脳裏に、何時も流れてきた、快いメロディー(**マドリガル**)は、どん底に陥りながらも...「我が、辿らねば為らぬ幻の道」...を、手探りで探しあぐんでいた当時を思い起こせば、彼の花との思い出、そして彼のメロディーは、「我が幻の道・探しにしがみつく我が手」を、支えてくれていた。そう考えれば、「**音楽は腹の満たしにもならず**」と、我が親は思っていたかも知れないが、姉(長女・節子)が、何時も歌いながら教えてくれた童謡、唱歌、旅情歌は、我が生涯に於いても心の支であります。而して、「**東日本・極大地震・津波発生**」後の、今後、「日本人としての**Identity**を求めよう」とすれば、少なくとも、...「日本語の言葉の始まりを知る」...と

言う考え方も、その選択肢の1つではないだろうかと、私は思う次第であります。

... 著作権者...小島・宏(2011／3／31／Friday)に記す

[新規ページ002](#)

感想はこちらのコメントへ
<http://p.booklog.jp/book/82221>

ブックログ本棚へ入れる
<http://booklog.jp/item/3/82221>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパプー (<http://p.booklog.jp/>)
運営会社：株式会社ブックログ

国名...【日ノ本の語源】 & 【**Identity of Japan**】 (日本国家起元解明キーポイント)

【唯一神明(造)様式／Canaan(忍)字】

- ① ... 当説(漢字以前・日本に文字無し説の否定)は、[鳥居／千木]の形状を文字と捕らえる。
- ② ... 当説は、「日本開闢神話・劈頭語意」を、創世記的語意(カルデア語版)と捕らえる。
- ③ ... 当説は、神武東征前歴(紀・神武東征前179万2470)を、創世記基点数値と捕らえる。
- ④ ... 当説は、神武紀元(辛酉)と、西暦紀元暦(*Xvptos*紀元説は嘘)を同暦と捕らえる。
- ⑤ ... 当説は、**Jerusalem**昇天思想(**千木**に関連)数値を、伊勢神宮建立年数値と定義する。

【概要】

表題【国名...日ノ本の語源】 & 【**Identity of Japan**】

【日本・漢音】表記は、[漢字言葉]を表し、[**ヒノモト**]とは、[元始ヤマト言葉]であります。そして、[Japan]とは、[漢字(日本) 翻訳のAlphabet言葉]であります。其の漢字[日本]の語意は「日の出」と言うが、其の端的に言う従来説では捕らえ切れてないこと然りであります、乃ち、

[日]は、「日...数値1／火／始め」等をも意味する[ヤマト文字言葉]の語意を有しているからであります。而して、[本]の字意を以て、単に「ヒノモト」と言うが、何を以て「日の源・的定義説を言い得ていたのか...?」等の、過去に於ける論議の検証無しに、単に、「日出ずる国」をして、「日本の国号起源説」とされ、更に納得する態度的説に対しては少々疑問を感じておりま

す。つまり、簡単に考えてもわかるように、其の、「**ヒノモト**」的発想は、「盆地...大和（奈良）」を拠点と成す聖徳太子時代の創案とは成り得ない事、然りであります。

「**ヒノモト**」と成す呼称の原案は、「東日本・地域者」を以て成し得る考え方で在る。まして、「縄文時代・説」等はありません。【**ヒ**（日）・**モト**（本）】的な定義説を成し得た人物（民族）は、高度な航海技術、及び、天文学等を有す者に絞られねばなりません。

「日本人の**Identity**を求める」方法は、其の人個人によっても様々ですが、その1つとして、[日本語の始まりを知る]と言う方法を、私は提言致します。では、[元始・ヤマト文字]とは、どのような言葉だったのだろうか？、と言う処に行きつきますが、現在の我が国の母国語学に言う、「大和（奈良時代頃）言葉」とは、「万葉仮名（奈良時代以降）を基本」として考えています。尚、古代、「我が国は、漢字導入以前は、自国の文字は無かった」とする考え方を通説としておりますが、其の通説の裏を検証すれば...「**奈良時代以降は解らない**」...と成すのも通説であります。然し、奈良時代（律令時代）以前に於ける、『魏志・倭人伝』に因ると、[元始・ヤマト文字]に因る、音節言語（例...卑弥呼）が記載されている史実を見逃すわけにはいきません。

現在に言う大和言葉とは、万葉仮名(奈良時代)を字母とするも、其の根拠的な事は見出し得ていません。然るに、「欽明天皇（紀）」記載の「仮名（存在的記述）」の存在に対しては、言及を避けて通るような、現在（戦後）の「日本・古代史研究法式」は、「手前味噌的研究法式」に等しと言っても過言ではありません。

漢字以前の音節言語[卑弥呼]の名称には、[元始・**カナ文字**]（『釈日本紀』参照）の語意に固定されて為る、[ヤマト文字言葉]の存在が感じ取れます。つまり、未だ、漢字を用いていなかった時代に於ける其の呼称である[ヒミコ]の、其の[**ヒ**]の語意は、[卑...イヤシイ]の意味では無く[**数値1**]及び[日・火]等の意と私は考えます。

我が国アカデミー（Academy）的、文献史学者の人達に因る【仮名・日本**紀**】（カナ・ニホン**ギ**）の存在に対する否定的な考え方は、「漢字以前に文字が無かった」と言う説を前提に否定しているので在る。然し、「奈良時代・以前」の歴史の事は解らないと成す意を以て考えれば、其の否定説には疑問が残ります。然るに、我が国の古代史（奈良時代・以降）研究の説明に於ける、「**缺史八代説**」や「**讖緯説**」も、無理が生じている事、然りであります。

【仮名・日本紀】とは漢字以前の文書（720年奏上【逸書・日本紀】以前）より、以前の文書を意味します。従って、此処に言う【カナ】（仮字）の語意は、現在に言う、漢字から作られたと成す「カタカナ」や「ひらがな」の意味では在りません。然るに、「カタカナ」、「ひらがな」が、未だ、無かった時代（律令時代・以前）の【カナ】（仮字）とは、いったい、どのような文字だったのかと言いますと、現在に言う【神代文字】の事で在ります。

『世界大百科事典』に因ると、「etymology（エテモロジー・語元）」とは、古代ギリシア語に因る「etymologia」に在り、其の意は、「語の、真の意味の探求に発する」等と在る。然るに、我が国の民族宗教で在る神道の、其の神々を祀（祭）る神社を象徴する【チキ】（千木）の語元を求めるに当って、古代期に於ける「アルファベット言語を有す民族」に的を絞った事を以て、其の最終的な探究先を、『Dead Sea Scrolls(死海遺跡巻物)』（1947年発見）に求め、従って、其の文中に、[千木の**語根**]（紀元前・**Q写本**）に関連する「神武天皇・東征物語」的原案を見出す処に辿り着きました。其の研究を以ての作図が、【日本開闢神話・創作基点図表】（2011/3/31・完成）で在ります。其の完成図表の内容は、【旧約聖書・創世記】～【日本開闢神話】～【磐余彦・即位元年設定暦】～【持統女帝・譲位年迄】と成っております。従って、【日本開闢神話・創作基点図表】を以てすれば、従来説に言う【讖緯説】、【缺史八代説】は、無理説（**継体在位年問題・解決済**）で在る事が直ぐに解る仕組みと成っております。

「磐余彦（後の神武天皇）・東征物語」の基点設定は、「伊勢神宮建立年（垂仁天皇26年・雄略21条に因る）・基点年数値」にも関連している。其れは、「神意的数値」つまり、【秘儀数値・教義】（ゲマトリア等）等の法式に基づく計算方式が採用されていたと言う事で在るが、其の「神意的思想の方向性」を、【**Jerusalem**・昇天思想】に基づく数値(**秘儀**)を以て説明するすれば、「伊勢神宮・建立年」は、「ユダヤ民族国家・成立」に於ける最初の国王と成った【タ

ビデ】を意味する数値（464→14）を以て意識的に設定されている事を以てして、「ユダヤ民族のthesis(テーゼ命題)」に対する解決策（日本・日本神話の創作）に行き着きます。

【元始・ヤマト文字言語】の起源（元）解明の研究、及び、【日本国家・起元】（起源ではない）の解明を、本格的に行う機関（academy）は、現在の日本国に於けるアカデミーに至っては全くと言って良い程、存在致しません。而るに、我が国（戦後）の「母国語学・国語学」（国学）は、「日本・古代史」時代頃、以前の【文字・言語】の【謎】等を、専門的に究明する機関では無いと言う事で在ります。而して、明治（5年迄は旧暦だった）時代的那珂通世（嘉永4年・1851年～明治41年・1908年）説、及び、延喜元年の【識緯説】自体（三善清行・説）が、古代中国の正統的、且つ、継続的に機能した歴史的根拠の無い処を以て、架空的に計算された数値を抛り所とするもので在り、然るべき事を以て考察すれば、「従来の・日本古代史研究法式」、乃ち、『現存・日本書紀』（偽書）の研究者、及び、『古事記』信奉に因る研究法式は、見直す事が在って、然るべきだと私は思う次第であります。

当説（「元始・ヤマトコトバの起元研究」）の法式、及び、其の研究内容は、神社の屋根に設置されている「千木」の語源（語根）を、『DeadSeaScrolls・死海遺跡巻物』に見出した事に因って、此の研究に於ける参考文献と致しましては、ユダヤ民族の『旧約聖書』、『Bible／外典／偽典』、及び、『新約聖書』、他、「シルクロード関連文書」等を、重要参考文献に追加した次第で在ります。【世界・神話】に関しましては、【古代・メソポタミア史】、【古代・エジプト史】、及び、【古代・西洋史（歴史／神話）】の追加で在ります。然し、日本の歴史に関しては、『古事記』は論外と致しておます。尚、基本的には『現存・日本書紀』（偽書）の筋を追う研究法式に従いますが、『日本書紀』の文中に於いて成る、切れ切れる部分に関しましては、『秀真伝...ホツマツタエ』文書を取り込む事に致しております。

我が国固有の民族宗教で在る【元始・神道】の、其の思想が記載されている、『現存・日本書紀』（偽書）に当っては、其の「神道思想」を追求する意を以て、【唯一神明（造）・様式】と、【鳥居】の形状に対し、【創造・神社儘文字立証学】（仮称）と位置付け、スタートさせました。其の研究法式とは、従来の『現存・日本書紀』（偽書）の研究、及び、『古事記』（偽書）信奉者に因る「日本・古代史研究法式」、又は、「超・古代史研究法式」、「日本&古代ユダヤ同祖論」等の諸説（失われた十種族説）の研究方式とは、一線を画します。従って、混同無きよう、宜しく御願ひ致します。

当研究に於ける、初期的段階に於いては、【自説・図表完成】を以て、終了と致しておます故、第2段階の研究方針と致しましては、其の【創世記・継嗣図表】を以て言い表す文字に対し、取り敢えず、【Bereshith.Joyning..of.Canaan.Japanese.Etymology】（創世記、継嗣、カナナン字、&、日本国的、文字言語学）、及び、

【Jerusalem.Temple.Number.Three.of.Japanese.shrin.only.one】（エルサレム、第3神殿思想の模倣、的、日本神道、伊勢神宮、厳存唯一神明様式造）と、書き残して置く事に致します。上記に記した此れらの事は、是れから、具体的に書き表して行く文書の道標の意と致します故、其れが纏まれば、又、ブログ等に投稿するつもりで在ります。表しておきますが、その解説に於いては、完成図表（Diagram）を用いて進めて行く所存であります。

【元始・ヤマト文字】に因る、其の言語、及び、【語根】（数値を含む）を基礎とした、【原初・ヤマト文字】の、其の【語根・図表】を作成しようと考えておりますが、未だ、具体的に示す段階には至っておりません。尚、【図表】の作成と致しましての最終目標と致しましては【Jerusalem第3神殿Of唯一神明様式】時代を含めた【聖人・昇天思想】（天照大神）迄の展開と成る迄を想定した構図を考えておる次第であります。而して、其の、最終的段階（筆者死後に於ける学説）と致しましては、私の孫（妻の息子の子供）、乃ち、【劉貞言／別称yusuf／中国暦・当年2011/5/1・3歳】が、私（小島・宏）の自説研究を引き継ぐ事として既に決めております。

【Jerusalem.Temple.NumberThree.Joyning.Japanese.Onlyone.and.shrine.Ascension】

【創世記／継嗣 of Canaan語源学】

ホームページ／home page 「<http://w01.tp1.jp/~a098477294/>」

Internet.メール 「erusaremu464@gmail.com」

Internet.メール 「erusaremu4640@hotmail.co.jp」

電子.メール 「dvd464236@hb.tp1.jp.com」

【第四エズラ記】に見る【日本建国起元】

...【ヤマト国家創建】と『旧約聖書・外典』...【第四エズラ書・第2エスドラス書】に付いて...』
ln.is/amba.to/2hnmG...『エズラ記』の【捕囚解放年...前538年】の数値（538← 数え年数）が用いられ、【日本（元始ヤマト国）建国元年・設定】が構築されていた。...以上の文書（↓ ↓ ↓）は、『72人訳・聖書』等の...《【第四エズラ書・第2エスドラス書】に付いて】の自分のブログ記事》...(ln.is/amba.to/2hnmG ←クリック・検索)に記載しています。尚、下記の文書は、其の文書の一部分をコピーして切り取り、貼り付けた文面です...《以下、↓↓↓『コピー・切り取り文書』》...です。

...『旧約聖書外典(上・下)』(訳者...関根正雄&新見宏・講談社発行)の...其の[外典...第四エズラ書(第2エスドラス書)13・39~45&14・37~48]の文書を、此处(下記)に記します。乃ち...(前文略す)...此の記事の全文(ブログ記事)は、
此处(URL)をクリック(若しくはドラッグして検索) → ↓ ↓ ↓
(ln.is/amba.to/2hnmG) ← (此处をクリック・検索)

...「表題...海から立ち上がる人(13・39~45)」...《さてお前の見た別の一群》...のおだやかな人びとのことだが、これらはホセア王の時代に捕囚となってひいてゆかれた十の部族なのだ。アッシリアの王シャルマネサルが彼らを捕虜(前6世紀)とし、河をこえて異国につれさったのだ。しかし、彼らは自分たちで別なくわだてを持ち、多くの国民をはなれて、人間がかって住んだことのない遠いところに行き、さきに自国に居たときに守らなかった律法をそこで守ろうと考えた。彼らはユーフラテス河の細い道を通してそこに行った。そのとき至高者が奇跡を行って、彼らが河を渡ってしまうまで流れをとめたからだ。その地域を通して彼らは長い道のりを旅をしなけりなかつた。その旅は一年半もかかった。その土地の名はアルザレト(もう一つの国)と言う。》...(第四エズラ記...の中程の記述文は略す)...

...因みに『エスドラス書』には...『第4エズラ』（ラテン語訳...ウルガタの付録に在る）が在る。然して、其れ以前としては、『第1エズラ書』（聖典エズラ記）。『第2エズラ』（正典ネヘミヤ記）。『第3エズラ記』（旧約外典）...『70人訳・ギリシア語訳エスドラ記』（第3エズラ書と）同じ。尚、【ウルガタ】とは、ヒエロニムスが、「紀元385~405年頃」に於いて、『新約聖書』、『旧約聖書』、『72人訳・聖書』等の...其の、『ラテン語訳・聖書』を校訂したもので、其の書の名称とされています。

...【「表題...聖なる啓示の記録(14・37~48)】← 此处の処が第四エズラ記の最終章の最後で在る」...《それからわたしは命じられたように五人の者をつれて広い野に出て行き、そこにとどまった。すると次の日、「エズラ」（ギリシア語読み→エスドラス）よ、口をあけてわたしが与えるものを飲め」という声がきこえてきた。そこでわたしが口をあけると、みよ、なみなみと注がれた酒杯があらわれた。中には水のようなものが、みだされていたが、その色は火のようであった。わたしは酒杯をとってそれを飲んだ。すると、たちまち私の心に知恵があふれ出て来て、わたしは悟りのことばを語りはじめた。わたしは心の中にすぎ去ったことの記憶を保っていたのである。わたしの口はひらいてとどまることなく語りはじめた。至高者が五人の者に悟りの力を与えたので、彼らはわたしが口授することを交替で書きはじめたのだが、その文字は彼ら自身も知らない文字であった。彼らは四十日間すわって、昼間は書きつづけ、夜になって食事をするといった日々であった。わたしの方は昼間語りつづけ、夜になっても休まず語った。こうして四十日の間に、九十四巻の巻物がかきあげられた。四十日がすぎたとき、至高者はわたしにいった。「お前がはじめにかいた二十四巻を公開して、読むのに適当な者と否とを問わず、すべてのものに読ませよ。だがあとにかかれた七十巻については、国民のうちの賢い者にだけ与えるためにしまっておけ。」「これらの書物の中には、悟り源、知恵の泉、知識の川があるからだ」。わたしはいわれたとおりに実行した。》...以上。...此の上記の記事内容は、後年（A.D70年・第二神殿陥落以後と考えられる）に【追記】されたとされています。

…此の上記に言う「表題…聖なる啓示の記録(14・37~48)」の文書は…《「紀元後 (A,D) ・ 1 世紀頃」 (70 年→イエルサレム第二神殿陥落時代以後) に書かれた》…等と、されています。

…然して、「その旅は一年半もかかった。その土地の名はアルザレト(もう一つの国)と言う」(第四エズラ記)

…此処に言う【アルザレト・もう一つの国】とは【元始・ヤマトクニ】(ホツマクニ→此云袍圖莽句爾) ←神武天皇31年条) …の事で在ります。

…然るに、『日本書紀』に記載されている【此云袍圖莽句爾・秀真国】(神武天皇・31年条に記載在り)とは、「東征開始から8年目の正月」(秀真暦58年【サナト】辛酉)に即位した年を以て、現在に言う【日本国家・元年(1年)】と定義されています。然るに、以後、歴代天皇の系譜は世襲制(古代・ユダヤ民族のダビデ系譜者が継承する方式)を以て、今日迄、引き継がれて来ています。

…然るに、【秀真暦55年の時】に、東征軍は【ヤオ】へ到着し、戦の陣形を組んだ。つまり、【秀真55年】の時が、既に【秘儀数値】に因る【ヤオ】の語元(八尾の語元)に当たっていたので在る。然るに、此の【ヤオ】(現在の八尾市の名称)の語元に言う【秘儀数値】は、【ダビデ】(初代・イスラエル国家の国王で在る)の数値が秘められているので在った。

…下記に【追記】(平成26年・2014/08/01・金曜)致します…

…私のブログの中では何回も記述している事で在りますが、【死海(遺跡)文書】(クムラン秘儀宗団文書・1947年発見)中に、我が、【日本国家・建国起元1年目】(神武天皇・即位元年に当る数値)に当る数値を以て、【メシア・来臨起点年】と成す意の文書を、多々、書き残していますが、然るに、其の起点年とは、現在に言う【西暦 (A,D) 1年】に当たっていると言う事で在ります。

…然して、我が国に於ける【日本(ヒノモト)・開闢神話】、及び、其の神話に続く『日本神話』の創作的意図は、先述の【メシア・来臨起点年】の数値年に対し、既に、接続された数値を以て創作されていたと言う事で在る。然るに、『現存・日本書紀』(偽書)の神話に始まる【景行天皇迄】は、『秀真伝』(ホツマツタエ)文書を漢字に書き換えた文書で在る。つまり、其の当時(5~6世紀頃)の編纂者達の都合の良ように『秀真伝』(ホツマツタエ)文書が刪定(削除)され、更に、漢字に書き換えられた文書で在ると言う訳で在る。然して、尚、現在の『現存・日本書紀』(偽書)とは、最初の文書、つまり…《養老四年・720年【元明天皇】(女帝)時に奏上された【続日本紀】(ショクニホンギ・←逸書)の中の「神武即位前紀の或重要な箇所」を刪定して成るのが『現存・日本書紀』(偽書)で在る》…

…然るに…《『秀真伝』(ホツマツタエ)文書とは…『日本人の聖書』として書かれた文書》…で在った。

…然して…『秀真伝』(ホツマツタエ)文書を構成(日本開闢神話～景行天皇迄の記述内容)する、其の、【秘儀数値】の構図とは、現在的、【絵画】に例えれば…《【絵画】と、其の絵を入れる【額縁】、そして、【吊り紐(ヒモ)】、其の紐を掛ける【吊り金具】》…に分ける事が出来ます。そして、例えば、其の値段を現在の貨幣単位を以て表せば、其の【絵】、【額縁】、【吊り紐】、【吊り金具】、の部分に分け、其の全部の値段が【1万円】と過程すれば、即ち、此れが、『日本神話』に於ける【ヨロズ】(1万)の語元で在る。

…然して、絵画に於ける【基本的木枠の規定サイズ】の「10号サイズ」を以て定義致します故、此処に、其のサイズを記載致します…即ち…【絵画用の木枠の規定寸法】は…《『①【F10号】(大幅)人物用・530×455mm』。『②【P10号】(中幅)風景用・530×410mm』。『③【M10号】(小幅)海面用・530×333mm』》…と成っています。此の記事に対し、現在(2014/12/12/金曜)、其の【日本建国起元枠・額縁図面】を作成中で在ります。

…然るに、【Fサイズ10号・額縁】と【Mサイズ10号・絵画】との双方を合わせて【1000円】と致します。其の内訳は、「Fサイズ」と「Mサイズ」の差(455mm - 333mm = 122mm)に対して【210円の税金】が加算され、【額縁】と【絵画】のセットが【790円】と成れば、其の合計が【1000円】です。然して、此の数値を。「神武天皇即位元年から景行天皇崩御年迄の在位年数」で表せば【790年】(790円)と成ります。そして、【税金…210】とは、『秀真伝』(ホツマツタエ)文書の最終年(790年)を以て【日本人の聖書・完成】の義を意図し

て成す、【天（アメ）・数値1000】（高天原）との交信に於ける【千木】（アンテナ的意味を有す）を以ての、【交信的電波】（秘儀数値・210）に当たる数値と致します。然して、此処に言う【秘儀数値・210】とは、【高天原・フトマニ】（ヤチマタ・128首歌・完全数に関する数値）の語元と成る数値で在る。

…此処に言う、其の【額縁】、【絵画】、【税金】として書き表した【秘儀数値】（ $790 + 210 = 1000$ ）とは、【日本建国元年・設定基点年】を設定するに必要不可欠な【秘儀数値】で在りました。つまり、「日本開闢神話～神武天皇即位元年～景行天皇崩御年迄」を記載した処迄（歴年790年迄）を以て、歴年の完了（序文に記載在り）と成す、其の、『秀真伝』（ホツマツタエ）文書とは、即ち…《『秀真伝』は『日本人の聖書』として書かれた文書で在る》…と言う事で在りました…以上…此処迄で、一端、一休みと致します。

…以下【追記】（平成26年・2014/08/02/土曜）…《【ヤオ】（八尾市の語元）数値に付いて》…

…現在に言う「B,C ← 紀元前」等と、書き表す言い方は、西洋に於ける六世紀以後で在り、西洋人（マルコポーロ等）がアジアに進出して来た事に起因する。然し、西洋人が過去の歴史年を言い表す時は、其の昔の「〇〇王の何年」等の言い方等で書き表したり、言い表していた。然して、紀元前31年、ユダヤ民族の国に発生した巨大大地震以後、其のクムランの地域で「秘儀教義の修行」等を行っていた【クムラン秘儀宗団】者達は行方知れずと成っているが、其の、【クムラン秘儀宗団】者達に言う…《【悔い改め】（Repent・リイペエントウ）思想》…の起こりは、【エゼキエル書】（4・4～6）に書かれている事等の行いを実践しながら、子孫にも伝え以て、過ぎてきた人達だからこそ、始めて言える思想だったので在る。

…つまり、「第2回バビロン捕囚の年（前587年）から数え始め、【390年間 → 前197年頃迄】の間、其の毎年の【悔い改め・修行年数】の経過年を数えながら、尚、子孫を通して実践してきた人達だったからこそ、且つ、其の期間の終わりを確認（前197年頃）した人達だったからこそ、始めて言える【悔い改め】（Repent・リイペエントウ）思想で在った。従って、【ダマスコ・契約】（前2世紀）以後に於いても、【バビロン捕囚の解放】年（前538年・キュロス二世の帰還許可に因ってイエエルサレム帰還と成る）から数えて成す、【神武天皇・即位前年】（秀真暦サナエ・57年）に当る年迄の、其の経過年に対し、即ち、其の当時（紀元前8～1年頃）の年が、【バビロン・解放年】から数えて、「530～538年目に当たっている」と計算出来た人達に付いて考察すれば、彼の、【クムラン・秘儀宗団】の人達だけしか存在しないので在る。従って…「タケヒト（後の神武天皇）、東征5年目に【ヤオ】へ着く」…等と成す記述（『秀真伝』文書に記載されている）を以て、【ヤオ】（現在・大阪府八尾市の名称と成っている）の地名が名付けられたので在った。然るに、其の経緯に付いて、再度、説明するとすれば、即ち…《【バビロン捕囚・解放年】から【536年目】の数値に関連する【数値・語根】（ヤオ）文字（秀真文字の存在）が設定されていた事》…に基づいて成す、【元始ヤマトクニ・建国設定起點年】の明確化で在った。従って、【タケヒト（後の神武天皇）東征物語】の、其の、創作的意図は、【奴隸解放の義】（東征物語）を以て成す、【カミ（上）ノクニ・建国の成就】の定義（命題）付けで在ったのだ。

…此の続きは、修正等を兼ねての後日と致します事、宜しく…。

…